

14.24
87日

千葉県水産試験場臨時報告
大正12年度
国立国会図書館



始



正 70 45

大正十二年度

千葉縣水產試驗場臨時報告

(鱈、鮪、一艘旋巾着網漁業試驗)

緒言

本縣ニ於ケル重要漁獲物ハ鮪、鯉、鰻、秋刀魚ニシテ該漁業ノ消長ハ直ニ本縣水産業全般ノ興廢ニ影響ヲ及スヲ以テ一面是等魚族ノ習性ヲ調査スルト共ニ他面ニ於テハ其ノ漁獲方法ノ改善ヲ圖ル必要ヲ認メ大正十一年度ニ於テ一艘旋巾着網専用ノ嘉々美丸ヲ建造シ大正十二年度ニ於テ巾着網ヲ作成シ上半期ニ於テ鯉鮪漁撈試験ヲ開始セシニ豫期以上ノ成績ヲ舉ケ得タリ下半年期ニ於テハ秋刀魚及鰻ノ漁撈試験ヲ施行スル豫定ナリシモ不幸ニシテ千古未曾有ノ震災ニ遭遇シ豫定ノ試験ヲ施行シ得サリシヲ遺憾トス今鯉鮪漁撈試験ノ經過並ニ其ノ成績ヲ發表シテ以テ當業者ノ參考ニ資セムトス

△大正十三年三月

大正
13. 10. 1
寄贈

千葉縣水産試験場長 笹子 治

十二年正 千葉縣水産試驗場臨時報告

目次

一、艦船一般旋巾着網漁業試驗

試驗ノ方法及經過概要

試驗ノ設備

漁具ノ構造

漁具ノ構成費

漁具ノ使用法

漁況

漁業表及漁場圖

試驗ノ成績

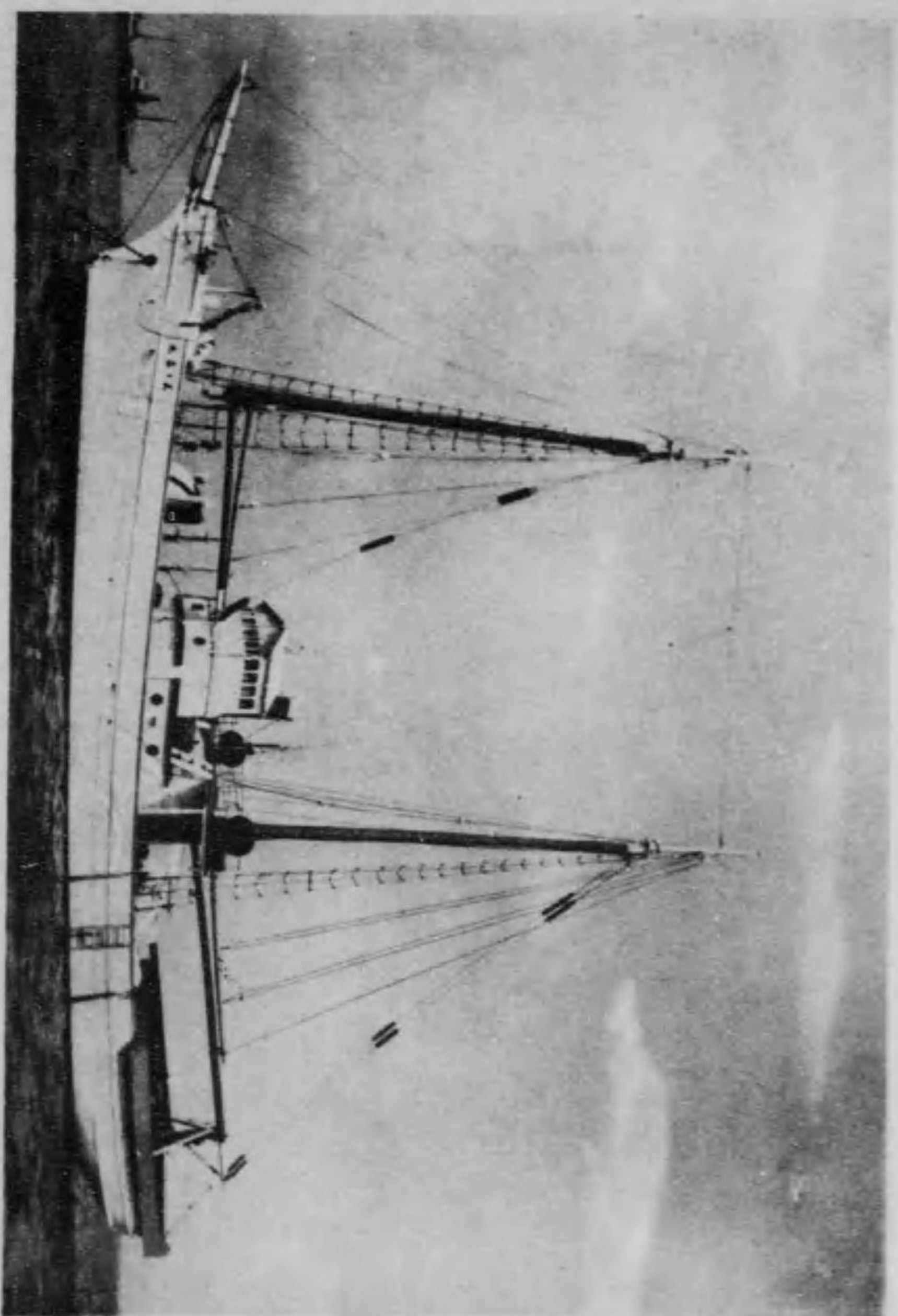
漁撈設備ノ改造

附圖

「ネットローラー」動力回轉裝置圖

漁具圖

改造セル嘉々美丸一般配置圖



嘉々美丸





大正十二年度

千葉縣水産試驗場臨時報告

一、鯉箱一艘旋巾着網漁業試驗

主任技手 佐々木武雄

試驗ノ方法及經過概要

一、試驗ノ設備
試驗船トシテ場船嘉々美丸ヲ使用シ本船ニ一切ノ漁撈設備ヲ施行シ手船トシテ端艇及傳馬船各一隻ヲ用意セリ尙漁具ハ巾着網一統ニシテ是等詳細ハ別項ニ記載ス

二、従業員
總員廿八名ニシテ其ノ内專用漁夫ハ二十名ナリ其他ハ靜岡縣伊豆國及本場所在地附近ヨリ可成本漁業ニ經驗アル者ヲ採用セリ、尙本試驗監督ニハ本場佐々木技手專ラ其ノ任ニ當レリ

三、試驗期間
自六月至八月三ヶ月間

四、試驗場所
山灣ヲ主根據地トシ大島近海、相模灣及洲ノ崎、野島崎沿海ヲ漁場トシ、主トシテ小鮪ニ付試驗ヲ施行シタリ

本場直營 試驗ノ設備

一、試驗船
本漁業ニ適當スル權農商務省水産局監督ノ下ニ船体ハ大日本水産會ニ於テ設計シ三重縣市川造船所ニ於テ建造シ機關及其ノ傳導裝置ハ東京新潟鐵工所ニテ製作シタリ其ノ詳細ハ大正十一年度本場事業報告ヲ参照スベシ

二、漁撈設備
本船ニ於ケル本設備ハ三重縣市川造船所ニ於テ施行シ是レガ指示監督ニハ本場佐々木技手當レリ其ノ詳細ハ大正十一年度本場事業報告ヲ参照スベシ

三、漁具
「ターナー」式一艘旋巾着網漁法ニ適應シ且小鯉漁獲ニモ適應スル様下田農商務技師指導ノ下ニ本場佐々木技手之レヲ設計シ下ノ關市日本漁網船具株式會社ニ於テ製作シタリ其ノ詳細ハ別項ニ記載ス

142-870



漁具ノ構造
鯉鮪巾着網仕様書

要 点

- 一、尺度ハ曲尺ヲ用ヒ一間ハ五尺トス
- 一、綿糸ハ總テ鐘紡赤鐘印廿番手トス
- 一、網地ハ總テ口編縁編ヲナスモノトス
- 一、マニラ麻網ハ中等品ヲ用フベシ
- 一、浮子沈子其ノ他ノ材料ハ上等品ヲ採用スベシ
- 一、網地、網類ハ上等コイルタルヲ以テ染ムベシ
- 一、仕様書ニ記載ナキ分ハ總テ一般構造法ニヨルベシ

構造ノ概要

網ハ浮子行五百十間ニシテ魚捕部ハ構造圖面ノ通り袖先ニ偏シテ設ケ、袖、脇、魚捕部ヲ適當ニ分チ得ル様ニ構成スベシ

縁網ハ全部網地ト同号糸口編ハ全部同号糸二重ヲ以テナスベシ又魚捕部ハ更ニ兩側縁一帯ニ綿糸四十号糸ヲ以テ四寸目ヲ作ルベシ尙兩脇網ノ魚捕側モ同シ構造ハ圖面ニ從フベシ、圖面ハ本網全部ノ構造ナリ

身

袖網(片方分)

(イ) 綿糸、八号、蛙又、四寸目百掛長二十五間切、五反

(ロ) 綿糸 全 三寸五分目 全長五十間切、六反半

(二) 脇

(ハ) 綿糸十二号蛙又三寸目百掛長五十間切、八反半

以上ヲ以テ袖脇部ノ一部分ヲ構成スルモノトス仕立上ゲ長九十七間半

(三) 魚 捕

(ニ) 綿糸十五号 蛙又二寸目百掛長二十五間切縦目縦縫十三反一丈

(ホ) 全 全 全二寸五分目全長二十間切 全 十反半全

(ホ) 全 全 全三寸目 全長五十二間切 一反 一丈

以上ヲ以テ魚捕部ヲ構成スルモノトス 任立上ゲ長サ三十六間

(四) 脇 網(片方分)

(ヘ) 綿糸十二号蛙又三寸目百掛長二十五間切八反半

(五) 網 綿糸十号蛙又三寸五分目百掛長五十間切七反半

(ト) 全 八号全 四寸目 全 六反半

以上ヲ以テ袖脇部ノ一部分ヲ構成スルモノトス仕立上ゲ長サ九十六間半

(チ) 綿糸八号蛙又四寸目百掛長五十間切六反半

(リ) 綿糸八号蛙又四寸目百掛長五十間切六反半

(リ) 同シ

(ル) 同シ

以上ヲ以テ袖部ノ一部分ヲ構成スルモノトス仕立上ゲ長百二十間

(マ) 綿糸七号蛙又四寸目百掛長五十間切六反半

(ワ) 全 全 全 五反

全 七号 五寸目一反

以上ヲ以テ袖部ノ一部分ヲ構成スルモノトス 仕立上ゲ長八十間

(カ) 綿糸七号蛙又五寸目百掛長五十間切四反半

(ヨ) 全 全 全 四反

以上ヲ以テ袖網部ノ一部分ヲ構成スルモノトス、仕立長サ八十間

縁網(横目ヲ用フ)

(一) 浮子方

(A) 綿糸十二号蛙又四寸目 十掛長七十五間

(B) 綿糸十五号蛙又三寸目 十五掛長五十間

以上 (A)(B)ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 仕立上ゲ長サ九十七間半

(C) 綿糸二十号蛙又三寸目十五掛長五十二間

以上ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 仕立上ゲ長サ三十六間

(D) 綿糸十五号 蛙又三寸目 十五掛 長二十五間

(E) 全 十二号 全 四寸目 十掛 長二百五十間

(F) 全 全 五寸目 九掛 長二百間

以上(D)(E)(F)ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 但シ縮結及分離部分ハ身網ノ各部分ニ從フベシ、仕立上ゲ長サ三百七十六間半

(二) 沈子方

(G) 綿糸十五号 蛙又五寸目 十掛 長サ七十五間

(H) 綿糸十五号 蛙又五寸目 十掛 長五十間

以上(G)(H)ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 仕立上ゲ長九十七間半

(I) 綿糸二十号 蛙又五寸目 十掛 長五十二間

以上ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 仕立上ゲ長三十六間

(J) 綿糸十五号 蛙又五寸目 十掛 長二十五間

(K) 全 全 他ハ(J)ト同シ長サ二百五十間

(L) 全 全 長サ二百間

(K)ト同シ

以上(J)(K)(L)ヲ以テ縁網ノ一部分ヲ構成スルモノトス 但縮結及分離部分ハ身網ノ各部分ニ從フベシ仕立上ゲ長三百七十六間半

側網(縦目ヲ用フ)

(M) 綿糸十二号蛙又四寸目十掛網丈四十間

(N) 全 全 五寸目 全 全

以上(M)(N)ヲ以テ夫々袖口側網ヲ構成シ仕立上ゲ各三十五間トナスベシ

脇、魚捕部ノ各接續ハ綿糸四十号糸十本ヲ配布シ上下ヨリ縫合スルコトヲ得ル様ニナスベシ其ノ他ハ身網ト同号糸ニ重テ用ヒ縫合

浮子網 マニラ麻左三子撚經四分及右三子撚經四分ノモノ各一本宛ヲ用フ但魚捕部ニ限り同シク經五分ヲ使用スベシ

浮子 富本式コルク丸型經四寸長五寸(四乃至五枚ヲ合セ)ノモノヲ以テ魚捕部ニ其ノ他ハ長方形長六寸五分巾三寸厚二寸三分ノモノヲ用ヒ豫備品二百二十三個共計二千三百五十個

沈子網 浮子網ト同シ(全部)

沈子 鉛圓筒形壹個三十五分孔經六分ノモノヲ魚捕部ニ其ノ他ハ五分ノモノヲ用ヒ豫備品二百五十個共計一千八百五十個

沈子配置圖ノ通り

手網 浮子方沈子方共ニマニラ麻左三子撚經六分長各六十ノ間モノヲ用フ合計四本

側網 マニラ麻左三子撚經四分一本ノ長三十五間ノモノ合計二本

分銅網 マニラ麻左三子撚經六分長サ百六十間ノモノ一本

環網 マニラ麻左三子撚經四分一本長十間ノモノ

合計 三十二本其ノ配置圖面ノ通り

締結網 スチールワイヤー(三十七本線六ツ打)經正味三分五厘一本ノ長サ三百間ノモノ二本撚戻シニヨリ接續シテ用フ

カボ糸 綿糸四十号糸ヲ以テ「ハ」ヨリ「ト」マデ間隔二寸五分毎ニ其ノ他ハ同三十五号糸ヲ以テ三寸毎ニカボヲ結ブベシ

五

結糸 綿糸二十五号糸ヲ以テ浮子沈子等ノ結糸トナス

環 鐵製鉛製鍍金内徑四寸鉄ノ經六分ノ丸鉄環ヲ用テ豫備五個共合計四十個其ノ配置圖ノ通り

燃戻シ 砲金製ニシテ其ノ構造別紙圖面ノ如シ數量壹個

なすかん 鐵製亞鍍金ニシテ各手綱ニ各一個宛合計四個

ごめかん 砲金製ニシテ環括網ノ一方ノ分ニノミ兩端ニ各壹個ヲ用テ

合計貳個

分 銅 鉛製七十五貫ノモノ壹個

ボラート 上等製品十個

縮 結 一(イ)ロ及自(チ)至(ヨ)間二割(此網地長浮子方四七五間)

二(ハ)トハ約二割五分(全一二五間)

三(ニ)ホハ約三割三分(全五二間)

四

豫備網(コールタール染)

- 一、綿糸 八号 蛙又 四寸目百掛 長五十間切 六反
- 二、全 七号 全 五寸目 全 三反
- 三、全 十二号 全 三寸目 全 三反
- 四、全 十号 全 三寸五分目 全 二反
- 五、全 十五号 全 二寸目 長二十五間切 四反
- 六、全 全 二寸五分目 全 長二十間切 三反
- 七、全 全 二寸目 全 長五十間切 一反
- 八、全 七号 全 六寸目 全 長四十間切 一反

雜用糸(白糸トス)

一、綿糸 八号 二貫目

- 一、綿糸 七号 一貫目
- 二、同 十号 一貫目
- 三、同 十二号 五百匁
- 四、同 十五号 一貫目
- 五、同 二十号 一貫目
- 六、同 四十号 三貫目

漁具ノ構成費 以上

一金 八阡七百五拾四圓四拾參錢也

品名	數量	單價	代價	價	摘要
一、鯉 鮪巾着網地(綿糸)					
八号 身網(袖) 本目 四寸目百掛 廿五間切五反	一二五間	七二	九〇	五六	一間ハ曲尺五尺トス
全 三寸五分目全五十間切六反半	三二五間	七三	六〇	二〇	
全 (脇) 三寸目 全 八反半	四二五間	一六	五〇	五三七	
全 (魚取) 三寸目 全 廿五間切十三反	三二五間	一七一	三五	五五六	
全 二寸五分目 全 廿五間切十反半	二一〇間	一五七	五五	三三〇	
全 三寸目 全 五十二間切二反	五二間	一五二	九五	七九	

十二号全	四寸目	十掛	二五〇間	一三	八〇	三四	五〇
全	五寸目	九掛	二〇〇間	一二	三〇	二四	六〇
全(沈子方)	全	十掛	七五間	一八	九七	一四	一一
全	全	全	五〇間	一八	九七	九	四八
二十号全	全	全	五二間	二二	七七	一一	八四
十五号全	全	全	二五間	一八	九七	四	七四
全	全	全	二五〇間	一八	九七	四七	四二
全	全	全	二〇〇間	一八	九七	三七	九四
側網	四寸目	全	四〇間	一三	八〇	五	四二
十二号全	五寸目	全	四〇間	一三	二二	五	二八
全	全	全	四〇間	一三	二二	五	二八
二、豫備網地(綿糸)							
八号	本目	四寸目	百掛	五十間切	六反		
七号	全	五寸目	全	全	三反		
十二号	全	三寸目	全	全	三反		
十号	全	三寸五分目	百掛	五十間切	二反		

十二号	全(脇)	全	二十五間切	八反半	二二二間半	一二六	五〇	二六八	八一
全	全(袖)	全	三寸五分目	全	五十間切	七反半	三三五間	一〇三	五〇
十号	全	全	四寸目	全	六反半	七二	四五	二三五	四六
八号	全	全	全	全	全	七二	四五	二三五	四六
全	全	全	全	全	全	七二	四五	二三五	四六
全	全	全	全	全	全	七二	四五	二三五	四六
七号	全	全	全	全	全	六〇	九五	一九八	〇八
全	全	全	全	全	全	六〇	九五	一五二	三七
全	全	全	全	全	全	五〇間	六〇	三七	一八
七号	本目	五寸目	全	全	四反半	二二五間	六〇	三七	一三五
全	全	全	全	全	全	二〇〇間	六〇	三七	七四
緣網(沈子方)	四寸目	十掛	七五間	一三	八〇	一〇	三五		
十二号本目	四寸目	十掛	五〇間	二八	四〇	一四	二〇		
十五号全	三寸目	十五掛	五二間	三六	二二	一八	八三		
二十号全	全	全	二五間	二八	四〇	一四	二〇		
十五号全	全	全	二五間	二八	四〇	一四	二〇		

十五号	全	二寸目	全廿五間切	四反	一〇〇間	一七一	三五	一七一	三五
全	全	二寸五分目	全二十間切	三反	六〇間	一五七	五五	九四	五三
全	全	二寸目	全五十間切	一反	五〇間	一七一	三五	八五	六七
七号	全	六寸目	全四十間切	一反	四〇間	五九	八〇	二三	九二
三、カボ糸	三十五号	四十号	取合セ		五貫	七	八〇	三九	〇〇
四、結糸	二十五号				五貫	七	八〇	三九	〇〇
右コールドター染代					五三〇貫	一〇	〇〇	五三〇	〇〇
五、網製作費	(監督者一名出張費ヲ含ム)							五〇〇	〇〇
六、雜用糸	(白糸トス)								〇〇
綿糸	八号				二貫	七	八〇	一五	六〇
全	七号				一貫	七	八〇	七	八〇
全	十号				一貫	七	八〇	七	八〇
全	十二号				五〇〇匁	七	八〇	三	九〇
全	十五号				一貫	七	八〇	七	八〇
全	二十号				一貫	七	八〇	七	八〇

全	四十号				三貫	七	八〇	二三	四〇
七、網類									
浮子網	香港マニラロープ	四分經	二本	九四八間	一一	六〇	一一九	四四	一問ハ曲尺
全		五分經	二本	七二間	一一	三〇	一五	三三	
沈子網		四分經	二本	九四八間	一一	六〇	一一九	四四	
全		五分經	二本	七二間	一一	三〇	一五	三三	
側網		四分經	二本	七〇間	一一	六〇	八	八二	
手網		六分經	四本	二四〇間	二八	七〇	六八	八八	
分銅網		六分經	一本	一六〇間	二八	七〇	四五	九二	
環網		四分經	三二本	三二〇間	一一	六〇	四〇	三二	
締結網	スチールワイヤーロープ	三十七本線	六打	六〇〇間	六〇	〇〇	三六〇	〇〇	
八、マニラロープ	コールドター染代			一五二貫	三	〇〇	四五	六〇	
九、雜品				二四〇個		五五	一三二	〇〇	
浮子	富本式	コルク圓筒形							
	長五寸	穴六分							

上若シ「ワイヤ」ヲ前記ト反對ニ「リール」ニ捲キ付タル時ハ左舷捲キナル本船ニテハ投網時右舷側「リール」ノ「ワイヤ」ニ剩餘ヲ來シタル時「ワイヤ」捲揚時ニ頗ル不使ヲ來スガ爲ナリ「短袖部」ワイヤ「(1)」外端ハ圖示ノ如ク、環差棒ニ裝セル「(2)」及「(1)」ニ通シアル短袖部各環ニ貫通シ、投網ノ際ニ便セン爲短袖部ノ浮子肩手網ト共ニ約五十尋ヲ網上ニ置ク、又内端ニハ「シンブル」ヲ附シ細糸ヲ以テ「ワイヤリール」ノ捲胴ニ縛シ置キ「ワイヤ」ノ走出最後ニ糸ハ切斷シ「(3)」ニ引掛ツテ「(4)」ヲ伴ヒ「(5)」ト連絡セシム長袖部「ワイヤ」「(6)」ノ外端ハ「(1)」ニ通ジアル各環ヲ貫通シ其ノ先端ニ燃戻シ「(7)」ヲ裝シ、連結用「シヤツクル」ニヨリテ「(8)」ト連絡ス、又内端ニハ「シヤツクル」ヲ有スル經五分ノ「マニラロープ」約三十尋ニヨリ連結サレ「ワイヤ」走出不足ノ場合ニ應ゼシムル用意トナス。

三、分銅ノ裝置法 分銅ニ植込ミタル三個ノ鉄製「アイポット」ノ内兩端ニ筒ニハ夫々適當ノ長サノ「ストロップ」ヲ設ケ、此ニ鉄製「スナツチ」ブロック「各一個ヲ取付ケ縮括網ノ導車トナシ中央ノ一個ハ「シヤツクル」ニヨリ分銅吊下用「テークル」ニ連結シ、其ノ吊下ニ供フ而シテ分銅ハ使用ニ便セン爲舷側ニ準備シ置クモノトス

四、人員ノ配置、總員二十八名ヲ左ノ如ク配置ス

1、漁群搜索時 漁夫長専ラ其ノ任ニ當リ其ノ他ノ乗組員之レヲ補佐ス

機關部ハ平常航走時ニ同ジ

- 2、投網時
 - イ、諸般ノ號令 船長
 - ロ、操 舵 水夫長
 - ハ、短艇係 漁夫三—四名
 - ニ、「ワイヤリール」係 漁夫一 名
 - ホ、船首部 漁夫四 名
 - ヘ、船尾部 漁夫長 以下六名
 - ト、機 關 油差二—三名

チ、「ウインチ」 機 關 長

リ、雜 役 其他ノ乗組員

3、揚網時 船 長

- イ、諸般ノ號令 機 關 長
- ロ、「ウインチ」 水夫長及漁夫四名
- ハ、分銅及其附近係 漁夫 四—六名
- ニ、「ワイヤリール」係 漁夫長及漁夫五名
- ホ、「ブライドル」係 漁夫 三—四名
- ヘ、短艇係 船夫及漁夫ヲ隨時之ニ當リ
- ト、雜 役 油差 二名
- チ、機 關 任務ヲ了リタル乗組員之ニ當リ船長ノ命ニヨリ船尾部ハ漁夫長船首部ハ水夫長指揮ス
- リ、揚網係

4、網繰リ越シ時

漁夫總員之ニ當リ船首部ヨリ揚ゲタル網ヲ船尾部網臺ニ繰リ越ス此ノ間機走平常ノ通り
前記ノ如ク配置スルモ時宜ニ應ジ其ノ人員ヲ増減シ又一任務ヲ完了シタル者ハ直ニ他ノ任務ニ從事セシメ繰業間寸時モ休憩セズ

五、投網準備 魚群ヲ發見スルヤ本船ハ常ニ群ノ右方ニ位置スル如ク操縦シ速力ヲ加減シテ其ノ游泳速度並ニ方向ヲ知り當時ノ風向風力潮流ノ方向速力ト對照シ投網及揚網作業ニ至使ナル様群ヲ追跡方向ヲ牽制ス是ガ爲メニハ數次群ノ先頭ニ追迫シ其ノ方向變換ノ如何ヲ檢スルヲ常トス若シ群ノ方向漁具使用ニ適當セザルハ可反的群ヲ誘引シ目的ノ達成ニ努ム此ノ間ニ於テ部署員ノ爲スベキ作業左ノ如シ

- 1、短艇係ハ乘艇シ豫メ網上ニ準備セル浮子肩手網縮括用「ワイヤ」及短袖部ノ網端ヲ繰リ取ル

2、船尾部係ハ魚具ノ沈降ヲ早カラシムル爲メ網地ニ海水ヲ注ギ又短艇ノ纜ヲ索ヲ何時ニテモ迅速ニ解キ放チ得ル様環差棒ニ結着シ且ツ網最初ノ放出ヲ容易ナラシムル爲メ船尾外ニ幾分網ヲ繰リ出シ置ク
 「デリック」ハ左舷側適當ノ位置ニ支持シ分銅ハ之ヲ裝シテ甲板上下ノ左舷側ニ接シテ位置セシム
 尚「ブライドル」吊揚ゲ用「テークル」ニケハ之ヲ整備シ又「ワイヤ」捲揚時ノ導キ用各「スナツチブロック」ハ之ヲ用意シ置ク

3、「ウインチ」係ハ「ウインチ」ヲ調整シ置ク
 4、船首部係ハ投網完了後短艇係ヨリ「ワイヤ」手綱ヲ受取ル用意ヲナス

六、投網

機熟スレバ本船ハ最大速力ニ移リ船長ハ好機ヲ逸セズ投網號令ヲ下ス然ルキハ直チニ短艇纜索ヲ放ツヲ以テ網ハ自然ニ「ワイヤ」及環ヲ伴ヒ順序ヨク放出ス、本船ハ魚群ノ先頭方向ヲ顧慮シツ、廻轉驅走シ漸次圓形ヲ画キツ、之ヲ包圍シ終ニ短艇ノ位置スル方向ニ突進シ短艇ヲ本船左舷側ニ止マラシムルニ適當ナル距離ヲ見計ヒ後退停止ス一方船首部係ハ短艇近ヅクニ適當ノ距離ニ於テ鐘ヲ附シタル細索ヲ艇ニ投ゲ與ヘ其ノ本船左舷側ニ適當ニ止マル事ヲ補助ス次ニ短艇ヨリ手綱及「ワイヤ」ヲ受ケ取り手綱ハ艇側ニ縛着シ「ワイヤ」ハ直チニ捲揚ニ着手ス船尾部ニ於ケルモノモ亦同様ナリ又之ト同時ニ船尾幕網ヲ垂下シ舵及推進器附近ヲ蓋ヒ網ノ纏絡ヲ防グ

七、揚網

(1)「ワイヤ」縮括、船首尾ヨリ來ル「ワイヤ」ハ直ニ夫々「ウインチ」ノ相當各「ドラム」ニ捲キ込ミ次ニ「デリック」ヨリ吊下シアル「ワイヤ」導キ用各「スナツチブロック」ニ通シ次ニ分銅ノ同「ブロック」ニ通ス此ノ間一旦左舷側ニ移動シタル右舷側「ワイヤ」ハ是レヲ右舷側ニ復歸セシム而シテ船首ヨリ捲揚ゲタル「ワイヤ」ハ「ウインチ」ノ前方ヨリ更ニ後方ニ導キ右舷側「ワイヤ」ニ及船尾ヨリ捲揚ゲタル「ワイヤ」ハ「ウインチ」ノ前方ヨリ左舷側「ワイヤ」ヲ裝シテレバ之ヲ海中ニ投下シ適當ノ深サニ沈下セシメ「ウインチ」ノ運轉ヲ開始シ「ワイヤ」ヲ捲揚グ、其ノ作業ノ進ムニ從ヒ分銅ハ漸次上昇スルヲ以テ其ノ都度「ウインチ」ノ運轉ヲ中止シ更ニ分銅ヲ

沈下スルヲ要ス

「ワイヤ」捲揚ゲ終リ環ノ一塊トナリテ分銅ト共ニ舷側ニ上リ來ルルキハ分銅ハ之ヲ取り除キ環ハ「ストロップ」ニヨリテ二部ニ分ツ一部ハ短袖部脇網迄ニ屬スル分他ノ一部ハ其ノ殘部此ノ際「ワイヤ」ハ連結「シヤツクル」ヲ外シテ環ヨリ抜キ取り以テ各「リール」ニ整理ス而シテ二分シタル環ハ後橋ヨリ設ケタル「テークル」ニヨリ更ニ吊揚ゲ「ブライドル」ノ付根舷側ニ來ルニ及ビテ止ム次ニ「ブライドル」ハ其ノ付根ノ部ヲ舷内側ニ設備シタル細長キ堅材ニ順序ヲ顧慮セズ廣ク配布シテ「ストロップ」ニヨリ假止メシ一旦吊揚ゲタル「ブライドル」ノ一部ヲ(長袖部)ニシテ船尾部ノ方(甲板)上ニ下ロシ他ノ一部ハ(短袖部)ニシテ船首部ノ方(其ノ儘ノ状態)ニ置キ機關ハ是レヲ停止シ揚網操作ニ移ル

(2)

揚網 先ヅ船尾部ヨリ揚網開始スルヲ常トス即チ「ターントーブル」ヲ網形リニ應ジテ廻轉シ人員ハ「テークル」上ニ配列シ漸次揚網シ初ム而シテ「ブライドル」係リハ所要ニ從ヒ順ヲ追フテ之ヲ解キ沈下肩係ハ環ノ來ルニ從ヒテ順次之ヲ環差棒ニ通ス又船首部ヨリノ揚網ハ短袖部脇網迄ニシテ作業ニ伴ヒ「ブライドル」ヲ解キ與フル「リナク」其ノ儘ニ放置ス斯クシテ魚捕部ニ至レバ總員舷側ニ位置ヲ更ヘテ配列シ端艇ヲ浮子肩ニ在ラシメテ之ヲ保持セシメ本船ヨリ揚網初メ魚ヲ一ヶ所ニ集中セシメ手綱ニテ船内ニ取り入レ其ノ數ノ減ズルニ至レバ浮子肩ヲ平欄ニ保持シテ魚ヲ本船ニ繰リ込ム
 端艇ハ「ワイヤ」捲揚中及揚網中ニ於テ網ノ周圍ヲ巡回シ網形リノ潰ル、ヲ防止スルニ勉ム尙魚取浮子網ニ丸太ヲ結着シ其ノ部浮子ノ纏絡スルヲ防グ本丸太ハ魚收獲ノ除ハデリックニ吊無シ收獲時ニ於ケル魚捕部浮子肩ノ不正形ニ陥ルヲ防止スルニ有効ナリ

漁況

六月

主トシテ相模灣大島近海及房總南海ノ魚群ヲ搜索シタレトモ相模灣ハ海況不良ニシテ魚影ヲ認メズ、房總南海ハ漁場遠ク操業不便ナルヲ充分ノ試驗ヲ爲シ能ズ、大島近海ハ時ニ鯉群ヲ認ムルモ凡テ「アマゴ」ヲ驅リ、群ノ方向轉換激

シタ六回ノ投網ニ遂ニ漁獲スルコトヲ不得不況裡ニ終リタリ

七月 前半ハ主トシテ大島近海、後半ハ野島崎沿海ノ魚群ヲ搜索シタレドモ荒天ノタメ出漁日數ヲ減少シタリ、大島近海ハ水温二十三度ノ東急潮ニシテ小鯉群相當多カリシモ前月同様群ノ方向轉換激シク投網ノ機ヲ得ル事困難ニシテ漁獲僅カニ一回ニ不過野島崎沿海ニハ月末小鯉大群ノ來游アリ、一回ノ投網ニ約二千二百尾ヲ收穫シタリ當海區ハ水温二十四度東ノ弱潮ニシテ、魚群ハ淺海ノ根ニ付キ容易ニ移動セズ其ノ沖合誘出ニハ甚ダ苦心ヲ要シタリ

八月 主トシテ洲ノ崎、布良、及野島崎沿海ニ群來セシ小鯉ニ付試驗ヲナシタリ

七日 野島崎廣根南西海ニテ搜索シタル小鯉大群ハ旋網ノ際其ノ海區ノ潮流表面東ニ急流シ、底部ハ南西流ノタノ揚網甚ダ支障ヲ來シ、加之風波ノ爲船體ノ動搖激シク遂ニ魚捕部ニ破綻ヲ生ジ網中ニ斃死シタル、大部分ノ魚ヲ沈落シ僅カニ、七百五十尾ヲ漁獲シタルニ不過、十一日洲ノ崎沿海ニテ旋網キタル小鯉ハ小群ニシテ、十二日洲ノ崎北方沖ニテ包圍シタル小鯉ハ濃厚ナル群ニシテ到底本船ノミニ積ミ取リ不能ナルヲ以テ出漁中ノ漁船ヲ備入レ漁獲物ノ運搬作業ヲナサシメタリ一網約六千尾ヲ漁獲シ、其ノ操業時間七時間十五分ヲ費シタリ、當海區ハ水温二十五度六ヲ示シ、西微南ノ弱潮ニシテ小鯉ノ群來多キヲ認メタリ、十六日洲ノ崎沿海ニ於テ漁獲シタル小鯉ハ初回投網ノ際淺海ノ爲漁網ニ故障ヲ來シ一度逸セルヲ追跡包圍シタルモノアリ、二十九日布良東北沿海ニテ包圍シタル小鯉ハ魚體ヲ鮮明ニセズ其ノ游泳狀態ヲ確實ニ察知スルヲ得ズ投網ニ苦心シタルモノニシテ、且ツ近海ニ重潮ノ爲メ網形著シク變化シ作業ニ困難ヲ來セシノミナラズ、包圍セル魚群中逸セシモノ少ナカラザルヲ認メタリ

要スルニ六月以向本月ニ亘ル三ヶ月間本試驗ヲ繼續シ、六月ハ乘組漁夫本漁業ノ操作ニ不熟練ノタメ事毎ニ失敗シ七月ハ荒天多ク從漁日數ヲ激減シ、八月ハ小鯉群ノ來游多ク、且乘組漁夫ノ技術熟練セシタメ機ヲ逸スル事ナク本試驗ヲ施行スルヲ得タリ

全期間ヲ通ジ投網回數十四度、漁獲回數七度ニシテ合計賣上高二万二千餘圓漁獲種類ハ殆ンド小鯉(はんめじ)多クきめじ少ナシ)ニシテ試驗初年度ニ於テ漁獲成績好結果ヲ得、八月卅一日ヲ以テ終了シタリ、

漁業表

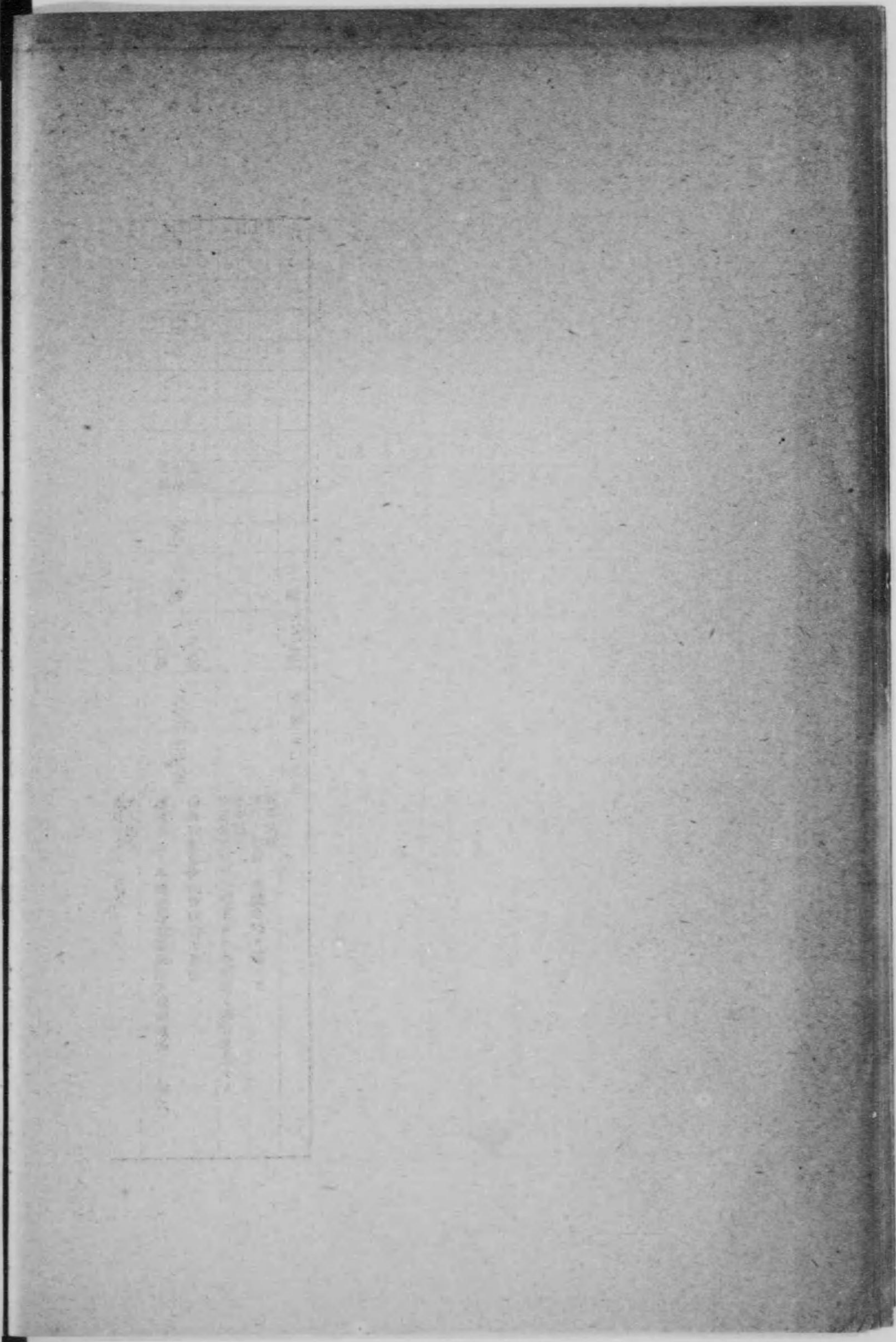
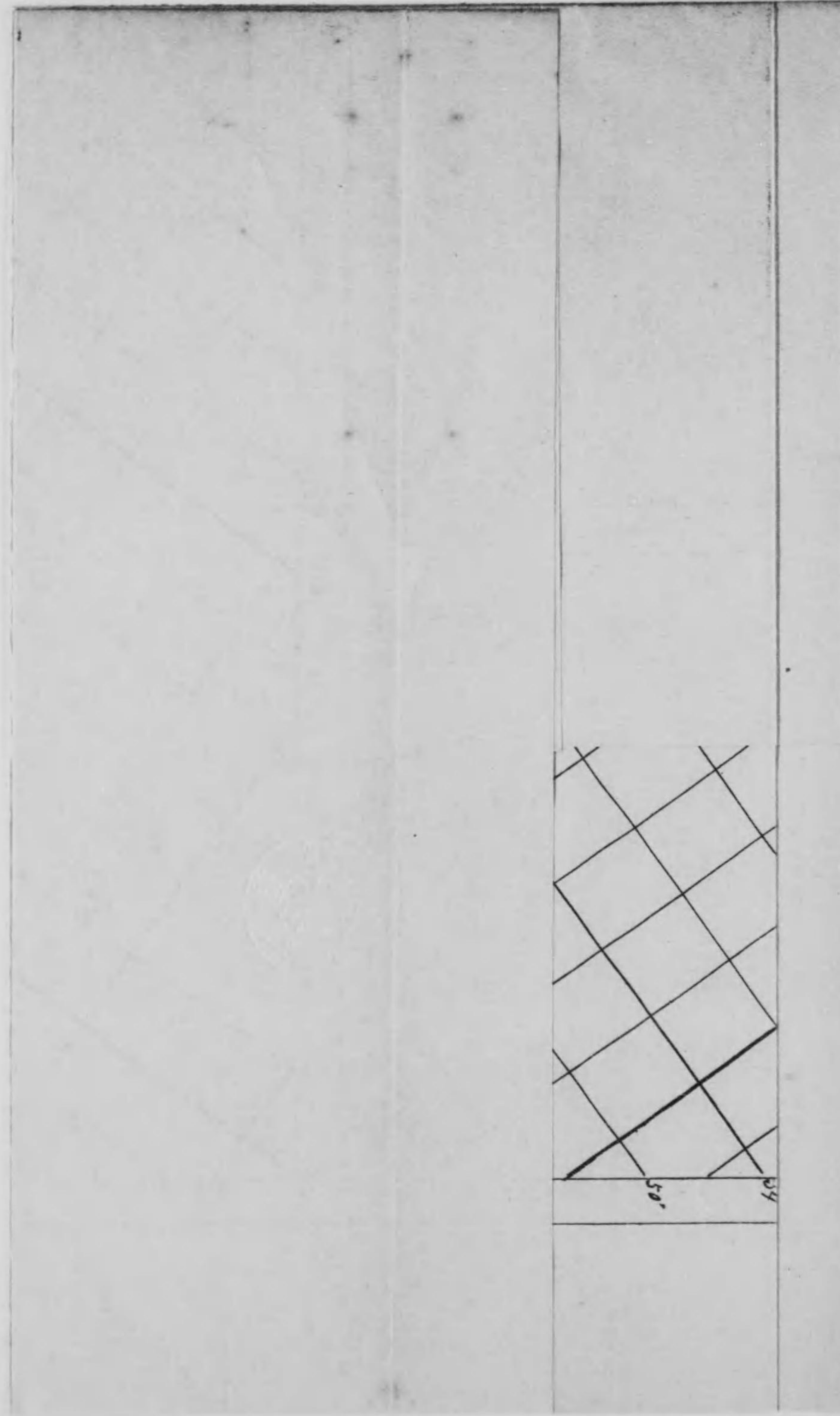
(大正十二年度嘉々美丸)

鯉 一艘旋網着網漁業

月日	天候	漁場	漁具	漁具表面比重	風力	浮網時	回數	水温	水深	種類	數量	平均重量	價額	捕	要
六月一日	10													網ノ仕立等作業	
六月二日	10													同	
六月三日	10													網船内積込	
六月四日	10													同	
六月五日	10													諸山出帆相續灣ヲ搜索セシモ魚群ヲ見ズ船取入港	
六月六日	10													大島列島新島津島近海搜索魚群ヲ見ズ、下田入港	
六月七日	10													大島、七浦沖台搜索魚群ヲ見ズ、興津入港	
六月八日	10													出帆、天候險惡、諸山歸航	
六月九日	10													天候不良碇泊	
六月十日	10													飯科水積込	
六月十一日	10													出帆、天候不良 伊豆網代港ニ避難	
六月十二日	10													大島近海ニ向テ天候不良波浮避難	
六月十三日	10													波浮沖合ニテ鯉群ニ出合、旋網セシモ魚足早ク逸ス同	
六月十四日	10													沖合鯉群多シ波浮入港	
六月十五日	10													同右	

日十一	日十	日九	日八	日七	日六	日五	日四	日三	日二	日一	月日	計
2B	2B	1B	2B	2B	1B	2C	1B	2B	1B	2B	月日 風力 天候 漁場	
				^							風力 天候 漁場	
AM10-10 AM12-0				AM11-10 PM-50							風力 天候 漁場	
-				-							風力 天候 漁場	
25.5				25.5							風力 天候 漁場	
											風力 天候 漁場	
WSW 弱				表面 E.急 底面 S.W							風力 天候 漁場	
全 80				60							風力 天候 漁場	
小 鮪				小 鮪							風力 天候 漁場	
三尾 000000				三尾 000000							風力 天候 漁場	
100000				100000							風力 天候 漁場	
100000				100000							風力 天候 漁場	
漁獲物卸新山歸港				漁獲物卸新山歸港							風力 天候 漁場	

日十一	日十	日九	日八	日七	日六	日五	日四	日三	日二	日一	月日	計
1B	1B	1C	1B	1C	1C	3B	4C	2C	1C	1C	日十一 AM11-10 PM 6-20	
				□							日十一 AM11-10 PM 6-20	
AM10-50 PM5-10				PM1-0 M4-10							日十一 AM11-10 PM 6-20	
-				-							日十一 AM11-10 PM 6-20	
24.2				24.2°							日十一 AM11-10 PM 6-20	
											日十一 AM11-10 PM 6-20	
W弱				WSW 弱							日十一 AM11-10 PM 6-20	
全 23.5				全 45							日十一 AM11-10 PM 6-20	
小 鮪				小 鮪							日十一 AM11-10 PM 6-20	
三尾 000000				三尾 000000							日十一 AM11-10 PM 6-20	
100000				100000							日十一 AM11-10 PM 6-20	
100000				100000							日十一 AM11-10 PM 6-20	
漁獲物卸新山歸港				漁獲物卸新山歸港							日十一 AM11-10 PM 6-20	

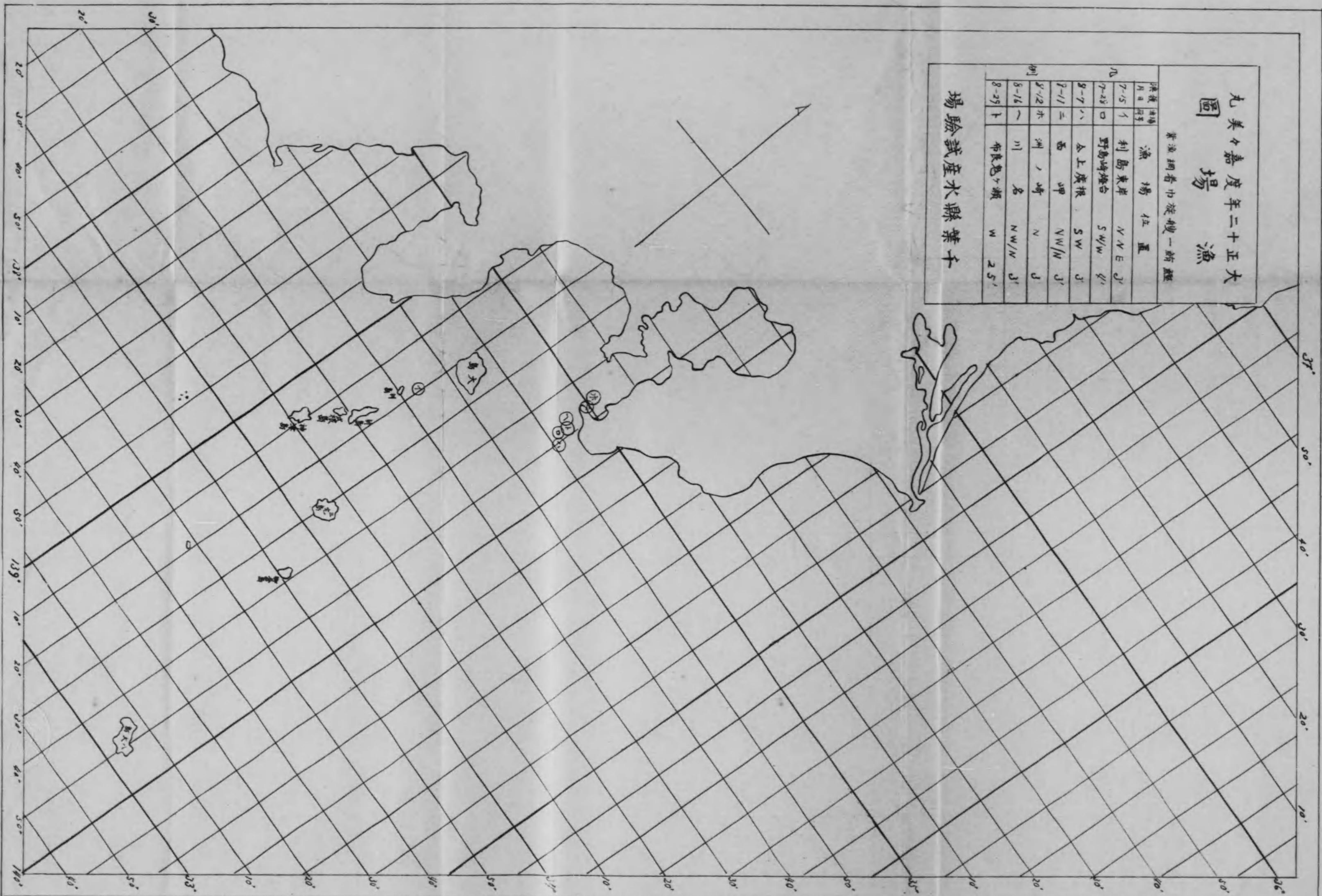


大正二十一年嘉度々々美丸
漁場圖

第一號搜旋中者網漁

漁獲 月日	漁場 位置
7-15	利島東岸 N/N/E 3'
7-23	野島峰燈台 S/W/W 4'
8-7	全上廣根 S/W 3'
8-11	西岬 W/W/N 3'
8-12	洲ノ崎 N 3'
8-14	川名 NW/N 3'
8-25	布良港ノ岬 W 2.5'

千葉縣產試驗場



試験ノ成績

成績並ニ試験ノ結果改造スルヲ適當ト認ムル事項左記ノ如シ

一、漁船

- (1) 大サ 試験ニ使用シタルハ嘉々美丸總噸數四九、〇五ナリ此ノ大サニ於テハ一切ノ設備ヲナシ乗組員廿八名ヲ船中ニ常住セシメ漁獲物滿載約三千五百貫ナリ又漁具ノ使用ニ關シテハ格別其ノ適否ヲ認メザルモ小形船ニ比シ風波ニ依ル動搖大ナル爲メ揚網時漁具ニ及ボス衝動亦大ニシテ漁具ヲ破損セシ事アリシモ是ハ其ノ時ノ狀況ニ應ジ操作ニ適當處置ヲ講ジ以テ緩和スル事ヲ得タリ
 - (2) 形狀ト舵ノ効用、本船ノ片舷ニ偏在シ揚網作業ニ從事スルモ傾斜及動搖比較的小サク又機走中直航回轉共ニ舵ノ効果大ニシテ機宜ニ應ジ操舵ノ變轉自在ナリ相共ニ作業上利便多シ、然レ共船尾部ハ「ターントーブル」ヲ位置セシメタル場合ニ「ターブル」面ガ水面ト平行スル如ク反リテ加減シ設計スルヲ良好ト認ム否ラズシテ本船ノ如ク後方ニ多キニ失スルハ「ターブル」ノ回轉圓滑ヲ缺ク一因トナルヲ以テナリ
 - (3) 又水線以上ノ船体ノ高サハ出來得ル限り低キヲ良好トス然ルハ作業上有利ナリ本船ノ如キハ現在ノ高サ中央ニテ約四呎(水線ヨリ手欄迄)ヲ以テ最大限度トスベシ
 - (4) 操舵室 後方ハ賄室ニ障ギラレ魚群追跡及旋網作業ニ際シ展望不便ナリ依ツテ其ノ床部ヲ約二呎高上シ且ツ展望自在ナル船橋トナスヲ適當トス本漁業ノ性質上操舵室ハ出來得ル限り前方ニ位置セシメ且ツ展望自在ナルヲ最も適當ト認ム是レ魚群包圍ノ好機ヲ早く獲取シ得ルノミナラズ其ノ追跡及旋網作業ニ際シテモ本船ノ操縱ニ利便多カルベキヲ以テナリ
- 魚艙、何等ノ處理方法ヲ施サズシテ其ノ儘漁獲物ヲ積ミ入ルトセバ約一千貫ナリ然レ共漁獲物ハ之ヲ魚艙内ニテ水藏又ハ海水漬トスルハ其量ヲ減少スルヲ以テ殘餘ハ不得止其儘甲板積トナシタリ
- 運搬船ヲ使用スル場合ハ格別ナレドモ本船ノ魚艙ハ可成大ニシテ且ツ漁獲物ヲ甲板積トスル場合ニモ其ノ鮮度ヲ可及的保タシムル何等カノ處置方法ヲ講ズル事極メテ必要ナリトス

(5) 船員室、設計當初ノ船尾部ノ漁具庫兼魚艙ハ後之ヲ漁具室及漁夫室ノ二ツニ分離シ漁夫ヲ船中ニ常住セシメタルニ從漁能率ヲ増進シ得タリ、又當該部分ニ補強工事ヲ施シ「ターンテーブル」及漁具ノ重量等ニ備ヘタルニ他船ニアリタルガ如キ甲板ノ不正ヲ見ズ好結果ヲ得タリ

(6) 檣、現在前檣、長サ四十一呎後檣、長サ四十七呎ノモノヲ更ニ低下スル方船体ノ動搖減少及本船ノ操縦ニ有利ナリ即チ前檣ヲ約三十六呎五吋後檣ヲ約三十八呎トナスヲ適當ト認ム又後檣「リギン」ハ船内適當ノ位置ニ移シ以ツテ舷側ニ於ケル魚捕揚操作業及船首部ニ於テ揚ゲタル網ヲ「ターンテーブル」へ繰リ越ス作業ヲ甲板上ニテ行ハシムルニ資スルハ頗ル有利ナリト認ム

(7) 帆ノ應用、魚群ヲ包圍シ縮括網ノ捲揚ヲ了シ愈々揚網ニ着手スルハ網形ト風下ニ位置スル本船トノ關係上本船ヲ適當ニ移動スルノ必要アリ然ルハ三角帆及前帆ヲ適當ニ展揚シ且ツ端艇ヲ力漕セシメ場合ニヨリテハ少シク推進器ノ活用ヲナシ其目的ノ達成ニ努ム然レ共好果大ナラザレバ元ヨリ手船ヲ有シ其ノ任ニ當ラシムルニ如クハナシトスルモ如斯手段ハ本漁業ノ性質上屑シトセザル處ナリ

二、機關及捲揚機

(1) 種類 所要ニ應ジ始動停止迅速ニシテ運轉圓滑燃料廉價且僅少ニテ足リ漁撈作業上經濟上極メテ有利ナリ馬力 七十五馬力ニシテ本船ヲ一切ノ從漁設備ノ狀態ニ於テ魚群追跡最大速度約七哩半ナリ本漁業ノ性質上更ニ高速ヲ要求スル場合少ナカラザルヲ以テ本船ノ大サニ於テハ百馬力位ヲ適當トスベシ

(2) 揚捲機、回轉狀況良好ニシテ強力充分ナリ然レ共回轉ノ速サハ今回實驗ノ結果「ドラム」ノ經九吋ナル本機ニ於テハ毎分約十八回及二十五回ノ兩小限度ヲ使用セリ是ノ際主機關ハ停止回轉ニシテ毎分三百五十回ニ整定セリ如斯回轉數四種變換ノ中低級限度ノ回轉數ニテ使用シタルハ傳導裝置ノ關係及「ウインチ」位置本船々尾部ナル爲メニ起因スル以外ニ縮括網ノ捲揚早キニ過ギ浮子方ヲ海中ニ沈降セシメ網形ヲ不良ニシ爲メニ魚群ヲ逃逸スルノ結果ヲ醸スノミナラズ漁具ニ及ボス抵抗大ニ過ギ殊更ニ其ノ損害ヲ來ス事トナルベキヲ以テナリ尙又一度降下シタル分銅ノ上昇甚ダ早ク再ビ沈降セシムルニハ勢ヒ回轉ヲ減少セシメザルベカラズシテ操作ヲ繁雜ニスル嫌アリ

依ツテ本機ハ現在ノ回轉數ヲ變更セシメザル状態ニ於テ「ドラム」ノ經ヲ八吋位ニ減少シ且ツ同一軸ノ兩側ニ各一個ニシテ二個作用ヲナス「ドラム」ヲ取附ケ縮括網以外ニ「ブライドル」捲揚「テークル」浮子方手網等ノ揚捲用ニモ資シ又「ブレイキ」ヲ設備シ所要ニ應ジ本機ノ回轉ヲ急止シ得ル如クナヌヲ適當ト認ム

本漁業用トシテ適當ト認ムベキ捲揚器ノ具備スベキ要件ハ大体ニ於テ機構簡單ニシテ力量約十五馬力ヲ標準トシ回轉良好ニシテ捲揚速度ハ毎分平均卅五呎、四十五呎、七十呎位ノ三種ニ變換シ得ル捲揚機ノ兩側ニ各二個宛「ドラム」ヲ設備シ其ノ兩側各一個宛ハ共ニ直接縮括網ヲ捲キ取ル構造トシ且ツ投網ニ際シテハ此ノ「ドラム」ハ他ニ關係ナク自由ニ圓滑ニ縮括網ノ走出ノ爲回轉シ他ノ兩側ノ「ドラム」ハ普通ノ構造ナレモ其ノ一個ハ二個ノ作用ヲナス如ク縮括網以外ノ他ノ網ノ捲揚用ニ供シ又「ドラム」ノ回轉方向及速度ハ所要ニ應ジ兩側別種ニナシ得ルモノトナシテ尙適當ナル「ブレイキ」ヲ有スルヲ要ス殊ニ本漁業ノ能率ヲ増進スル爲メ本機ノ運轉ヲ左舷旋右舷旋ノ漁撈操作ニ使用スルヲ得ルガ如クセバ一層有利ナリ

(4)

傳導裝置、試驗ノ結果良好ナルト認ムルヲ得ズハニ研究スルヲ緊要トス即チ殊ニ機關ノ主軸ニ通ズル鎖車及鎖帶ハ機關運轉ニ俱ヒ平素回轉スルモノナルヲ以テ其ノ摩擦速度カニシテ就中鎖帶ハ裝置ノ當初ニ於テ幾分緊張ヲ缺クノミナラズ使用中漸次弛緩スルヲ以テ摩擦迅速ニシテ約五百時間ノ使用ニ堪エタルニ過ギズ（鎖帶ノ電動力ハ十五馬力ヲ有ス）此ノ間（ウエンチ）使用回数十七回（試演回数モ含ム）約十四時間ナリ且ツ鎖帶ハ回轉中央ノ背面ヲ他ノ機構ニ摩擦スルヲ以テ少ナカラザル摩擦粉ヲ生ズ此金屬粉ノ大部ハ其ノ位置下ニ沈澱スル如キモ一部ハ潤滑油ト共ニ各方面ニ運バレ勢ヒ主機關ノ内部構造ヲ損傷セシメ其ノ命數ヲ減縮スルニ至ル重大ナル惡結果ノ原因トナルベシ現ニ機關解体掃除ノ際（メタル）ノ表面甚ダ圓滑ヲ缺キタルニ徴スルモ明カナリ、故ヲ以テ本部ニ於ケル裝置ハ此ノ弊害ヲ除去スル或種ノ考案ヲナスト共ニ鎖帶ヲ改良スルカ或ハ別ニ他ノ有効ナル裝置ヲ施スヲ緊要トス又甲板上ノ傳導軸ニ通ズル鎖車及鎖帶ハ捲揚機使用ノ際所要ニ應ジ前掲部ニ連結シ使用スル裝置ナルヲ以テ前掲ノ部ノ如ク摩擦迅速ナラズ且ツ摩擦粉ノ主機關ニ及ボス影響無キモ更ニ有利ナル裝置トナス研究ヲ要ス其他ノ部分ハ適否ヲ認メズ

三、漁撈設備

(1)

「ターレット」網ノ積載及投網揚網ノ各場合ニ際シ其ノ作業ヲ容易ナラシメ且ツ所要時間ヲ短縮シ有効ナルヲ認メタリ 左ニ之ガ各場合ニツキ記スベシ

(イ)

網ノ積載船尾及其ノ各舷側并ニ船首ノ三方向ニ本臺ヲ回轉シ積載ニ便ナリ

(ロ)

投網、本船ノ旋廻方向ニ對シ臺ノ回轉適當ニ應ゼザル事アルヲ以テ臺ノ前面ニ於テ「テークル」ヲ使用シ其ノ廻轉ヲ補助スルノ不便アレドモ固定的「ローラー」上ヨリ漁具ヲ走出スルモノニ比シ頗ル平易ナリ又漁具走出ニ際シ「ネットローラー」上ヨリ縮括網稀ニ臺外ニ逸スル事アルモ臺ノ縁材平滑ナルヲ以テ何等故障ヲ生ゼズ顧慮スルノ要ナシ

(ハ)

揚網臺ヲ網形ニ適當ノ位置ニ廻轉シ漁夫ハ臺上適當ニ部署シ作業ヲ爲シ得ルヲ以テ努力ノ損失ヲ防ギ且ツ作業ノ滯滞ヲ來ス事無ク又揚網後臺ヲ原位置ニ復スルハ漁具ハ其儘投網準備ノ姿勢ニアルヲ以テ他船ニ見ルガ如キ網ノ積直シ等ノ必要ナリ時間ト手數ヲ省省シ得テ便宜多シ然レドモ作業ノ進捗及臺ノ位置ニヨリテハ臺ノ廻轉ハ十八人位ニテナヌヲ得ズシテ更ニ人數ヲ増シ「テークル」ヲ使用セザルベカラザルノ不便アリ考慮ヲ要ス

(イ)

「ターレット」ノ各部ニ關シ記セバ左ノ如レ

大サ及形狀、長サ十七呎幅ハ前部十六呎十一吋後部十四呎十一吋トシ其後部ノ中央ハ約一呎船内ニアリ兩側ハ前部各約四吋船内ニ後部ハ約二呎半船外ニアリ之レニ長四百八十間巾四十乃至五十二間半重量約一千二百貫ノ本網ヲ積載スルハ最高部ニ於ケル網ノ高サ約四呎ニシテ網ノ大サニ比シ「ターレット」ノ大サ及形狀共ニ適當ナリ

支軸ト廻轉輪、「ターレット」ノ支軸ハ且ノ前面ヨリ八呎七吋側面ヨリ八呎ノ所ニ設ケ廻轉輪ハ甲板上ニ二重ニ圓形ニ計十九個配置シ共ニ成積概ネ良好ナルヲ認メタリ然レドモ「ターレット」ノ支軸位置ハ本船ニ於テハ船尾材隔避梁ノ位置關係ノ爲メ不得止「ターレット」ノ重心ヨリ後方ニ移シタル共是レハ「ターレット」ノ重心位置上ニ設定スルヲ至當トス又「ターレット」廻轉スルニ要スル力ハ本船トシテハ漁具ヲ積載シ約十八人位ニテ平易ニ手廻シヲ得ルヲ最小限度トスベシ之ガ爲メニハ更ニ廻轉輪ヲ増置シ各輪ノ重力負擔ヲ減少スルヲ適當ト認ム尙輪ノ油壺ハ砲金製トシ腐蝕ヲ防グツ有利トス

本「ターレット」ノ廻轉角度ハ左右各約百四十度ナレドモ全廻轉ヲナシテ「ネットローラー」ガ船首ニ眞向ヲ如クスレ

作業上便利ナリ

- (ハ) 「ネットローラー」ノ後端ニ於テ兩側ノ縁材ニテ支持スル横「ローラー」一個ヲ設備シ試用シタルニ此「ローラー」ノミシテ充分ニシテ他ニ見ル如キ縦「ローラー」ヲ設備スルノ要ナシ本「ローラー」ハ其下面迄「テーブル」上面ヨリ約三寸ヲ最小限度トシ(本船ノ如シ)一呎以上高キヲ不要尙直經ヲ兩端ニ於テ減少スルハ揚網ノ際此ノ部ノ摩擦殊ニ多キヲ以テ中央部同様ノ經トナスヲ良好トス「ネットローラー」ニ動力ヲ利用シ揚網ニ資スルハ揚網ニ要スル勞力ヲ省キ時間ヲ短縮シ頗ル有益ト認ム
- (2) 「ワイヤリール」一個ノ大サハ經三分五厘長三百尋ノ縮括網ヲ捲キ收ムルニ足ルモノニシテ同物ニテカテ賄室屋上ニ設備シ脚部ヲ二條ノ鉄軌道上ニ乗セ「リール」ノ左右移動ニ便セリ本機ニハ夫々「ブレーキ」ヲ裝置シ又機ノ位置ハ甲板ニアラザルヲ以テ他船ニ於テ見ルガ如キ投網揚網ノ操作ニ不便ヲ來セシ事ナシ前記(1)(3)ノ如ク捲揚器ヲ改造スルハ特ニ本機ヲ設備スルノ要ナシ
- (3) 「サイドローラー」縮括網ヲ「ウエッチ」ニ導ク爲メ初メ左舷側手摺上ニ廻轉式ノ「サイドローラー」二個ヲ設備シタレドモ縮括網ハ捲揚中往々手摺及船復ヲ摩擦スル事アルヲ以テ爾後「デリック」上適當ノ位置ヨリ「ペンナント」二條ヲ垂下シ各條端末ニ「ローラー」ノ代用トシテ鉄製「スナッチブロック」各一個ヲ取付ケ尙甲板上ニ「ウエッチ」ノ位置ニ從ヒ導滑車ヲ取付ケ縮括網ヲ導キタルニ支障ナキノミナラズ反ツテ各方向ヨリ來ル縮括網ニ應ジテ作用シ且ツ手摺及船復ヲ摩擦スルコトナク利便多キヲ認メタリ
- (4) 「リングホルダー」環差棒ハ「ターンテーブル」上面ノ前方左内隅ニ且ツ投網時ノ「ワイヤリール」ノ位置ニ應ジテ建設シタルニ其ノ位置常ニ「テーブル」ノ廻轉ニ俱フヲ以テ投網時ニ於ケル環及「ワイヤリール」ノ走出並ニ揚網時ニ於ケル環ノ整備ニモ利便多キヲ認メタリ
- (5) 「デリック」後橋ニ嚴重ニ設備シタリ本「デリック」ハ漁撈操作中ニ於テ受クル重大荷重、即チ同時ニ縮括網ノ縮括操作ト分銅吊下ニヨリ受クル曲撓力ニ對シ強力充分ナリ然レ共其ノ長サハ長キニ失シ使用上不便少ナカラザルヲ以テ約六呎ヲ切り詰メ總長十九呎トナシタルニ適當ナリ又「デリック」ノ「リフト」ノ端末ヲ固定スルニ「バツファア」ヲ設備シタルニ其ノ效果ヲ鮮明スルニ至ラザレドモ「リフト」受クル抗強力ヲ緩和シ有効ナリ然レ共其ノ大サハ前

記最大荷重ニ對シテ本船ニ於ケルモノハ大ニ過ギルノ感アリ研究ニ値ス

- (6) 「ブライドル」 撰別方法及揚網操作、揚網時縮括網ヲ捲揚了リ一塊トナリテ揚ガリ來ル「ブライドル」ハ是レヲ適當數量ニ二分シ後橋ニ設ケタル二個ノ「テーブル」ニヨリ各別ニ橋上適當ノ位置迄曳キ上ゲ然レ後船尾部「ブライドル」ノミヲ其ノ付根ノ部ニ於テ「ストロップ」ニヨリ順序ヲ顧慮セズ船ノ長サニ沿ツテ舷橋柱内側ニ固着シタル細長キ堅材ニ一時支持セシメ爾後揚網經過スルニ從ヒ必要ノモノヨリ順次解キ與フル方法ヲ施行シタレトモ是ハ「ブライドル」ノ撰別及支持操作ニ比較的長時間ヲ費スノ缺点アルヲ以テ研究ヲ要ス魚捕部揚網操作ハ端艇ト相對シ本船左舷舷側ニ於テ爲ヌヲ以テ現在ノ後橋「リギン」ヲ船内甲板上適當ノ位置ニ移シ且ツ舷側支柱ハ之レヲ除去スルヲ適當トス然ルハ揚網操作上利便多キノミナラズ其他漁撈操作上甚ダ有利ナリ
 - (7) 船首「ローラー」及網繰越用「ローラー」、前橋左舷「リギン」後方ノ手摺外側ニ沿フテ設ケタル船首橫縱「ローラー」ハ船首部ニ於テ漁網短袖部ノ揚網ニ供スル爲メノモノニシテ是レガ爲メ作業上利スル事大ナリ網繰越「ローラー」ハ船首部ニ於テ揚ゲタル網ノ一部ヲ左舷側ヨリ「ターンテーブル」上ニ繰越ス爲メニ使用スルモノニシテ三ヶ所ニ設置シ其内中央一ヶ所ハ「リギン」反舷側支柱ノ位置ノ關係上賄室左舷室屋上端ニ縱橫「ローラー」一組ツ、二組設備シ他ハ船内甲板上下各々橫「ローラー」一個宛ヲ取リ除キ得ル様取附ケタリ故ニ他船ニ於ケル如ク船首部ヨリ揚ゲタル網ヲ繰越スニ當ルテ本船ヲ停止状態ニ置キ網ヲ再ビ海中ニ投ジ「テーブル」上ニ繰越ス様ノ事ナク揚網後ハ直チニ本船ヲ航走セシメ得ルコト平常ニ異ナラザルヲ以テ引續キ速カニ魚群ノ搜索等ニ着手スル事ヲ得ルノ便多シ即チ網ノ繰越シハ其ノ航走中ニ於テ遂行スルナリ後橋「リギン」ヲ船内ニ移シ舷側支柱ヲ除去スルハ賄室左舷屋上端ノ「ローラー」ノ代リニ取除シ得ル横「ローラー」一ヶヲ船内甲板上ニ設備スレバ足ルヲ以テ一層利便多シトス
- 漁具ノ成績
- (四) 大 設計ハ仕立上長サ五百十間トセシモ各くるま網地長サノ都合ニヨリ事實四百八十間ニ短縮使用シタリ(縮結ハ設計通り)又高サハ中央部五十二尋魚捕部五十一尋袖端各四十尋ニシテ高サノ平均ハ四十九尋ナリ即チ高サハ長サノ約十分の一ナリ此ノ大サニ於テ使用回数十四回(試演ヲ含マズ)中長サ足ラズシテ魚群ヲ逸シタルコト

五回同様大半ヲ逸シタル事一回又網部ヨリ魚群ヲ逸シタリト思考シタル事一回ナレトモ前ノ場合ハ漁夫ノ採獲ニ未熟ナルニ因ルノミナラズ魚群ガ豐富ナル天然餌料ヲ驅リ其ノ方向變換激シカリシニ起因シ後ノ場合ハ潮流方向ノ推定ヲ誤リ爲メニ網部ノ捲揚ゲニ際シ網部ノ浮上ヲ著大ナラシメタル爲ナリ

完全ニ魚群ヲ包圍漁獲シタル場合ニ於テハ殆ト毎回長サニ於テ約五乃至十五間ヲ剩シタリ

要スルニ本漁具ノ大サハ今回實驗ノ結果一尾一貫外内外ノ小鮪一網三千尾位ヲ包圍スル程度ニ於テハ漁法ノ熟練ニヨリ更ニ縮少シ得ベキモ漁獲目的物タル魚群ノ最大量船ノ大サ及本漁業ノ組織ヲ考慮シ定ムベキモノニシテ卒ニ斷定スルヲ不得今後ノ實驗ニ俟タザルベカラズ(實驗ノ結果ニヨレバ本網ノ程度ニ於テハ一回ニ一尾約九百三十尾ノ小鮪約六千尾ヲ以テ最大ニ近キ數量トセン)

(2) 網各部ノ配合及形狀、本船ハ揚網ヲ主トシテ船尾ヨリスル式ナルヲ以テ魚捕部ハ可成船首ヨリスル揚網部ニ偏在セシムルヲ便利ト認メ網ノ長サノ約十九分ノ一ノ所ニ位置セシメ之ニ從ヒ脇網及袖網ヲ配合セテ即チ魚捕部ヲ基準トシ船尾ヨリ揚網スル部分ヲ長袖トシ船首ヨリスル部分ヲ短袖トシタリ又網ハ是レヲ六局別ニ區別シ修繕手入及運輸便ニ供シタルニ何レモ適當ナルヲ認メタリ網ノ形狀ハ長サノ方向ニ於テ縮結ヲ有シ高サ殆ト同一ナル帶狀ニシテ僅力最初ニ揚グル兩袖ノ端部ノ高サヲ幾分減ジタリ今回使用ノ結果ニ付キ其ノ狀況ヲ詳細知ルヲ得ザリシモ網ノ大サ及縮結捲揚等ハ關連シ科學的實驗的ニ研究ヲナスハ本漁業ノ能率増進上重大ナル事ニ屬スベシ

(3) 網地材

(1) 魚捕部、上半部ハ二寸目下半部ハ二寸五分目ヲ用ヒタリ試驗ノ結果魚獲セル魚体ノ最小一尾約三百七十尾ノ鯉ニテ凡ソ八百尾ナルニ微スレバ此ノ目合ニテハ此ノ大サノ魚ニ對シテハ適當ナルモ如斯實驗ハ僅カニ一回ニ過ギザレバ確證スルヲ得ズ本部中下半部ヲ上半部ハ同等ノ目合ニセズシテ幾分大ニシタルハ魚捕部揚網操作ニ際シ裾ハ先ニ之ヲ船内ニ取入レ魚溜リトセザルヲ普通トシ且ツ本部ノ重量ヲ輕減センガ爲ナリ網中ニ包圍セル魚ハ揚網中網形不良ニ陥リ其游泳場所ノ狹隘ヲ來テ時ハ斃死スルモノ續出シ大部分網底ニ洗積シ揚網作業魚捕部ニ及ベバ魚ハ一塊トナク其ノ重量ハ此場所ニ集中スレバ魚捕部ハ殊作抗強力ノ大ナル網地ヲ使用スルノ要アリ依ツテ網系ハ比較的強靱ニシテ且ツ重量及容積共ニ少キ線系ヲ採用シ大イサ十五号トナシタリ此ノ大サノ網ナレバ海

上半部潮流好適ノ状態ナレバ一尾約九百三十尾ノ小鮪約三千尾ノ海中ニ於ケル重量ニ堪ユルヲ實驗セリ然レドモ試驗中一回波浪アリ船舳動搖スル事大ナル日ニ於テ包圍シタル魚ヲ魚捕部ヨリ捕リ入レ中(斃死セル)此ノ部ニ破綻ヲ生ジ凡ソ前記同數量ノ小鮪ヲ逸シタ事アリ是ハ船体動搖多キ爲メ魚取部ニ大ナル衝激ヲ支ヘ浮子方ノ破綻ヲ來シタルニ原因ス爾後魚群ヲ包圍シタルハ殊ニ網ノ正形ヲ保持可及的魚ノ斃死ヲ防止シ又漁獲物ノ捕リ入レニ際シテ網底ヲ別ニ供ヒタル太糸ノ支持網ヲ以ツテ支持シ且ツ捕リ揚ゲ數量ヲ小部ニ區分スル事トナシ前記ノ失敗ヲ免レタリ、要スルニ魚捕部ハ十五号糸ヲ以ツテ良好トスベキヤ否ヤハ今後ノ試驗ニ俟ツテ決セザルベカラザルモ大体ニ於テ適當ナルモノ、如シ又魚捕部浮子方長サハ出來上リ約三十二間トシテ使用シタルニ大サ充分ニシテ尙網目ハ之ヲ從目ニ使用シタルニ線網操作上適宜ナルヲ得タリ

(ロ) 脇網及袖網部

目合糸ノ太サ及網高サ長サ共ニ魚捕部ヨリノ配置ニ從ヒ加減シタリ即チ目合ハ三寸、三寸五分、四寸、五寸ノ四種ニシテ就中四寸目ハ全長ノ二分ノ一餘ヲ用ヒ其ノ殆ト全部ヲ長袖側ニ配置シタリ又糸ノ太サハ十二号、十号、八号、七号ノ四種ニシテ其ノ中八号糸ハ全々四寸目ニ用ヒタリ是レガ使用ノ結果ハ目合ハ小鮪ニハ適當ナルモ約三百七十尾ノ鯉ニハ四寸目以上ハ稍大ニ過ギルモノ、如ク大部分ヲ三寸五分位トスルヲ可ナリトセン糸ノ太サハ其適否ヲ明カニセザレトモ魚捕部同様網ノ使用年限及操作上ノ關係等顧慮スベキ要件多クアリ率カニ限定スルヲ得ザルモ今回ハ格別不良ト認ムル点ナカリキ

(ハ) 線網及側網

目合ハ浮子方ノ大体系網ニ準シ沈子方ハ全部五寸トセリ糸ノ太サハ線網ハ當該身網系ノ太サヨリ幾分増大セリ即チ浮子方ニ於テハ袖網ニテ五割又ハ約七割二分ヲ脇網及袖ノ一小部分ニテ二割五分又ハ二割ヲ増大シ沈子方ニテハ袖網ニ於ケルモノ、ミヲ約八割八分又ハ十二割四分ヲ増大シ其他ハ浮子方同様トセリ目合ニ於テ浮子方ヲ沈子方ニ比シ細ニシタルハ浮游スル魚ノ逃逸ヲ防止センガ爲メニシテ又糸ノ太サハ沈子方ヲ浮子方ニ比シ増大シタル

ハ縮括網ノ捲揚及ブライドルノ吊リ上ゲニ際シ強力ヲ加フル事多ケレバナリ
線網ノ長サハ身網ト同長トシ高サ四尺乃至五尺トナシタリ 使用ノ結果何レモ其ノ不備ナル点ヲ認メザリシモ沈
子方「ブライドル」ノ附根ハ稀ニ破綻スル事アルヲ以テ三角形網ヲ挿入スルヲ有利トス
側網ハ要スルニ袖口ノ整備及手網取付ニ便センガ爲メノモノニシテ之ヲ備ヒザルヨリハ備フルヲ有利トス
縮括網

(4) 帶狀ヲナス本漁具ハ旋網了リ環網ノ捲揚ゲ漸次進ムニ從ヒ網形縮ミ其ノ揚網時ニ達スルハ更ニ其ノ度ヲ増シ自
然ニ囊狀ヲ呈スルニ至ルモノナルヲ以テ縮括ハ可及的少クスルモ差支ナキモノト思考シ魚捕部ヲ約三分脇網
及袖ノ一小部分ヲ約二割五分其ノ他ハ總テ二割トナシタリ
魚捕及脇網ノ縮括比較的大ニシタルハ揚網作業進捗スルニ從ヒ魚群ノ游泳場所狹隘トナルヲ以テ之ヲ補ハンノミ
ナラズ魚捕ハ魚溜リトナルガ爲メニシテ又袖網ニ比較的少クシタルハ網目ヲ保持サスルヲ主眼トシタルニ不過バナ
リ而シテ是ガ實驗ノ結果ハ毫モ支障ヲ來サザリキ或ハ更ニ減少スルモ差支ナカルベキカ今後ノ研究ヲ要ス

(5) 漁具附屬品
(イ) 浮子
「コルク」製ニシテ形狀ハ魚捕ニ丸形其他ハ個々ノ取換容易ナル長方形ヲ採用セリ其ノ數量配置ハ網各部ノ位置重
量及用途ヲ顧慮シテ定メ魚捕ヲ最多トシ總數二千二百二十七個重量百三十五貫餘ナリ此ノ浮子概ネ五百六十四貫ニ
シテ漁具ノ水中重量三百四十五貫餘ヲ控除シ更ニ二百十九貫ノ浮力ヲ餘ス即チ豫備浮力トシテ漁具水中重量ニ對
シ六割三分餘ヲ具有ス實驗ノ結果ハ浮力少キニ過ギ浮子ノ海中ニ没入スル事ナク又多キニ過ギ浮子方ノ抗強力過
大ニシテ爲メニ當該部分ノ網地ノ破綻ヲ來セシ事ナク相應セルモノ、如クナレドモ更ニ今後ノ實驗ニヨリ研究ス
ルヲ要ス尙豫備トシテ「ボラード」十個ヲ用意シ浮力不足ノ場合ニ應ズル事ト豫定シタルモ斯ル場合ナク使用スル
ニ至ラズシテ了リタリ

(ロ) 沈子
鉛製ニシテ其ノ數量配置ハ單ニ網ノ投入順位ヲ顧慮シテ定メ其ノ後尾ナルニ從ヒ幾分増加セリ總數千六百四十五

(ハ)

浮子網沈子網ハ「マニテ」麻製ニシテ共ニ魚捕ニ對スルモノハ強力ヲ顧慮シテ經五分トシ其他ハ經四分トナシ手網
側網、分銅網モ夫々「マニテ」麻製ニシテ太サ長サ共其ノ成績ヲ確定スルニ至ラザレトモ概ネ良好ナリ
「ブライドル」ハ「マニテ」麻製經四分一條ノ長サ十尋ヲ間隔四尋ニ折返シ三十二條設備シタリ間隔ハ可成狭ク長サ
ハ可成長キ方網縮括ニ要スル力ヲ減ジ網ノ受クル抵抗ヲ少クシ且ツ網形ノ保持ヲ援クル等有利ナレトモ縮括及網
ノ大イサ又ハ投網時ニ於ケル網ノ走出状態及揚網時「ブライトル」吊リ上ゲ状態ヲ顧慮スルトキハ自ラ制限アリ
是等ノ現況ニ適應スル如ク設備スルヲ要ス本年試用ノ結果ハ太サ間隔長サ共ニ適應スルモノト認メタリ或ハ網縮
縮括ノ際網ニ及ボス抵抗減少及網形保持等ヲ顧慮スル爲メ「ブライトル」ノ長サヲ兩袖ニ短ク中央部ニ至ルニ從ヒ
長クスルモノ一法ナラン然ルキハ揚網時「ブライドル」ノ吊リ上ゲ及其ノ整備方法ニ特種ノ工夫ヲ要スベシ
縮括網ハ「スチールワイヤー」三十七本線三分五厘一條三百尋ノモノニ條ヲ燃リ戻シニ依リ接續使用シタリ實驗ノ
結果太サハ是レ以下ニ減ズルハ使用力ノ關係上不利ナルモ長サハ合計約五十尋ヲ減ズルモ差支ナシ尙一條トセズ
二條トシテ使用スルハ取扱上手入作業上利便多シ
環、燃リ戻シ、「シャツクル」

(ニ)

環ハ之ヲ稍々大ニシ内徑五寸、鉄ノ經七分位トナス方「ブライドル」吊リ上ゲ時ノ取扱上及使用力ヲ増大スル点ニ
於テ有利ナリトス 燃リ戻シニハ「ボール」ヲ裝置シ廻轉ヲ圓滑ナラシムルノ資ニ供シタリ其ノ使用ノ結果ニ就テ
ハ詳ラカニセザレトモ二條ノ縮括網ノ接續用ニハ便利ナリ「シャツクル」ハ總テ「ビン」ノ突出部ヲ除去シ螺着セシ
ムル裝置トナシタリ燃リ戻シ部ノ「シャツクル」裝置ニハ殊ニ細心ノ注意ヲ要ス之レ今回試驗中其ノ「ビン」ノ位置
ヲ縮括網走出方向ニ在ラシメタル爲メ投網中「ビン」ノ螺着ヲ弛メ之ヲ脱落シ遂ニ縮括網ヲ海中ニ於テ二條ニ分離

シ大ナル失敗ヲ來シタル事アレバナリ
五、漁具使用成績表

項目	月	六	七	八	計	備考
漁具使用回数		六回	三	五	一四	外ニ試演三回
漁獲回数		一	二	五	七	
最大漁獲高		一	五、六七、六〇	九、九三、三九〇		洲之崎沿海最高
最小漁獲高		一	五、四六、〇〇	七〇、八九〇		大島沿海最少
總漁獲高		一	六、三三、一一〇	一五、八七、三三〇	三三、〇八、四〇〇	

六、漁具使用時間明細表

九月一日大震災ノ爲メ本記録ヲ失ヒタルヲ遺憾トス

結論

之ヲ要スルニ本漁業ハ試驗初年度ニ於テ小鮪ノ漁獲成績好果ヲ收メ其ノ結果ヲ明ラカニ得タリト雖モ經ニ對スル試驗ハ遺憾ナガラ極メテ淺薄ナルヲ以テ更ニ今後ノ試驗ニ俟タザルベカラズ
又漁撈ノ設備、捲揚器、漁具、漁法並ニ漁獲物處理方法等ニ就テハ科學的經濟的ノ見地ヨリ今後尙幾多ノ改良ヲ要スベキ事項アルハ前述ノ如シ依テ益々試驗研究ヲナシ本漁業能率ノ發揚ヲ遺憾ナカラシメントス

漁撈設備ノ改造

今回鮪漁業試驗ノ結果設備トシテ改造ヲ要スト認メタル事項中來年度ニ於テ之ヲ實施シタル主ナルモノ左ノ如シ來

改造工事ハ三重縣大湊町市川造船所ニ於テ施行シタリ、

一、「ネットローラー」動力回轉装置

「ウインナー」元軸ノ後端ニ「カッブリング」ヲ取付ケ之レヨリ齒車及廻轉軸ニ依リ「ネットローラー」右舷側外端ニ連結シ主機關ノ動力ヲ利用シ「ウインナー」ニ關係ナク本「ローラー」ヲ内方ニ回轉シ得ル装置トナシ又「ネットローラー」ハ檣材經八吋二分ニシテ其周圍ニハ全長ニ亘リ幅二吋高二吋ノ半丸形檣材ト經二吋「マニラロープ」トヲ交互ニ眞鍮螺釘ヲ以テ固着シ兩端ハ黃銅製「ベアリング」ニ嵌メ込ミ動力回轉自在トナシ以テ揚網設備ニ供ヒタリ而シテ投網ニ際シテハ本「ローラー」ハ動力装置ト絶縁シ自由ニ回轉シ得ル構造トナシタリ

(附圖參照)

二、操舵室改造現在操舵場ヲ取去リ其ノ跡ニ高七呎十吋長四呎八吋幅九呎ニシテ柱及桁梁、ハ檣材トシ土臺、屋根板、壁板ハ米松良材内部ハ樺又ハ榿地材ヲ混用シ「タイヤーボール」トハ鉄經四分ノ三吋六本ヲ以テ充分堅固ナル堅メトナシ本室床ハ機關室圍壁上二呎ノ高サトナシ床下ヲ物入レトナシタリ又周圍ハ前後左右共上下自在ナル角型硝子窓ヲ裝置シ操舵者ノ展望ニ便ナラシメ後壁兩舷ニハ開閉戸ヲ設ケ堅固ナル眞鍮蝶番及錠前ヲ附シ室内ニハ操舵機及機關室ニ通ズル「エンデン、テレグラフ」「ボイスチユウブ」、信號旗、棚、物入戸棚ヲ配置シ操舵者ノ位置ニハ「グレートチング」ヲ備ヒタリ又屋上周圍ニハ徑一吋鉄柱ヲ立テ高二呎六吋ノ手欄ヲ造リ後部ニハ鉄製昇降梯子ヲ設ケタリ、

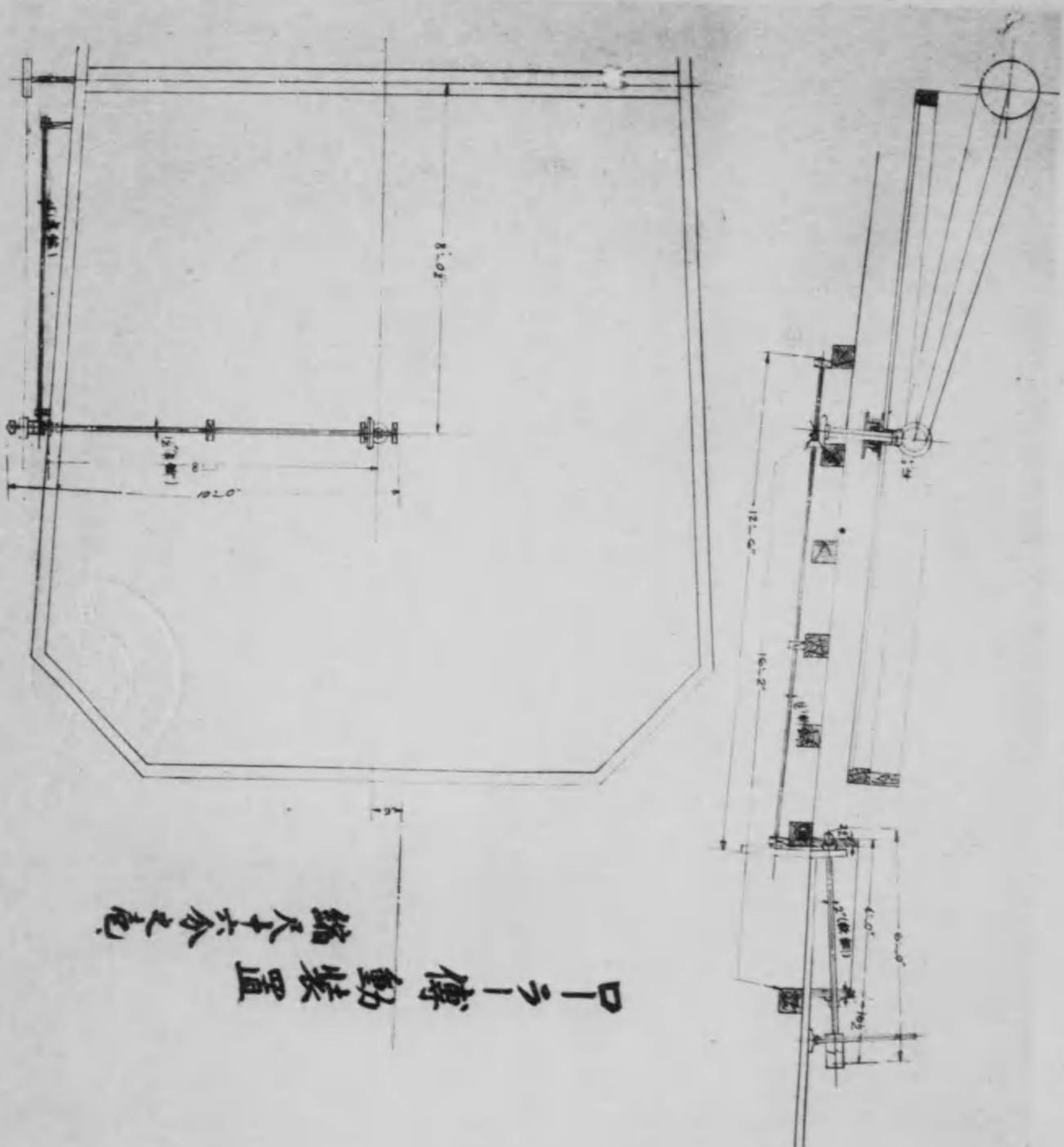
三、檣切詰工事

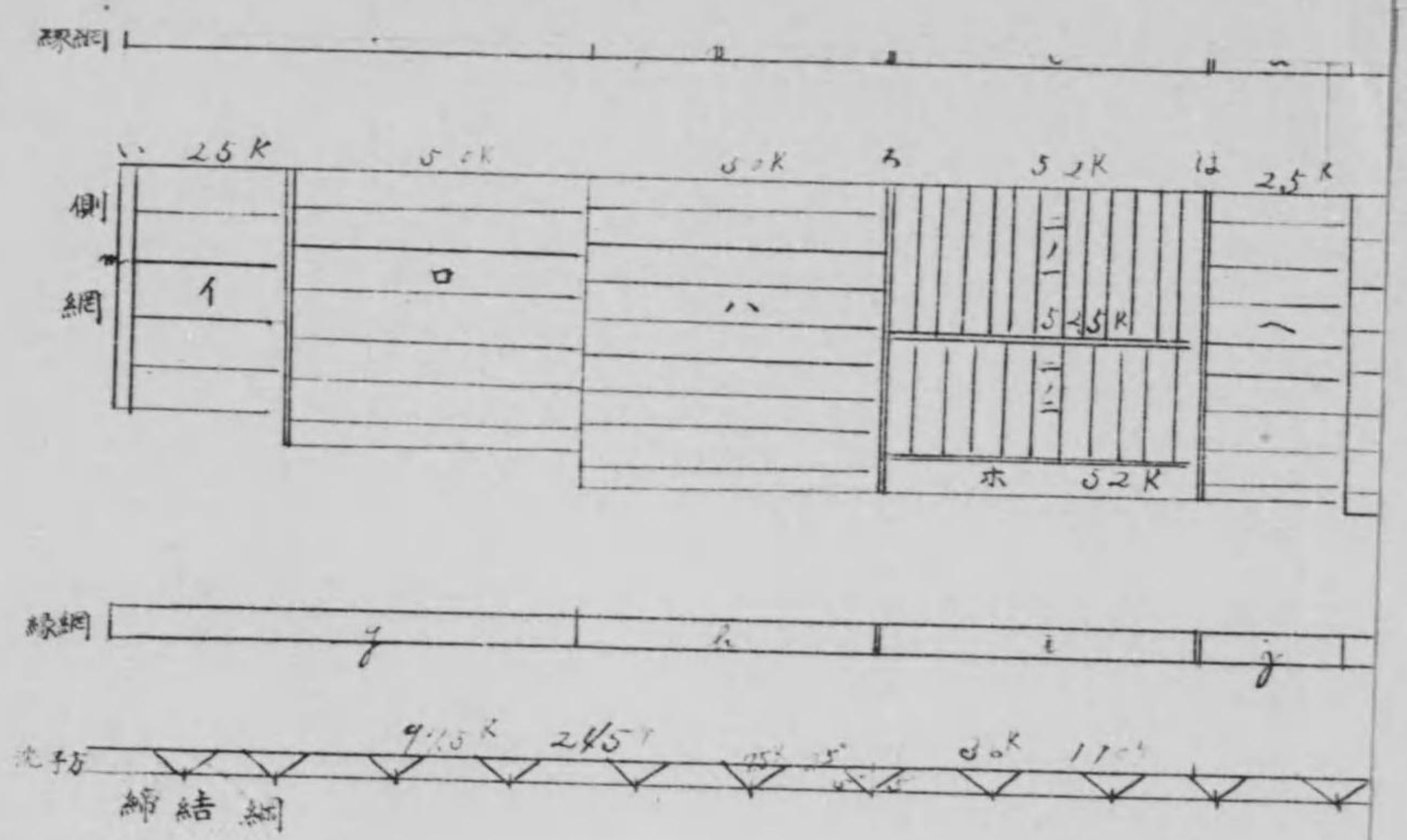
前檣ヲ四呎五吋切詰メ長サ三十六呎五吋トナシ後檣ヲ九呎切詰メ長サ三十八呎トナシタリ
後檣「リギン」位置變更
後檣「チエーンプレート」ヲ取去リ甲板外側ニ接シテ位置セシメ甲板ニハ補強材ヲ取付ケ之ニ「アイボルト」ヲ固着シ現在ノ「リギン」スタクリューヲ螺着シタリ

五、船橋「サイドスタクション」改造

鮪室兩舷既シノ現在「サイドスタクション」ヲ取去リ鉄丸棒形一吋四分一ヲ以テ取外シ自在ナル鉄柱ヲ設ケ且

- 六、ツ梁ニハ腕長各三十吋ノ鉄曲材ヲ固着シタリ
 「ウインチ」主胴改造
 現在ノ主胴「形」形ニ改造シ且ツ其ノ徑ヲ八吋全長十四吋トナシタリ
- 七、「ウインチ、ブレイキ」鉄製
 鉄製手用「ブレイキ」一ケヲ設備シ綱捲揚時ニ於ケル不時ノ處置ニ供ヒタリ
- 八、甲板「ローラー」設置
 左舷甲板上ニ現在有スル二ケ以外ニ更ニ一ケヲ増置シ其材料ハ檜徑五吋ニシテ取外シ得ル装置トナシタリ
- 九、舷樁柱内部打物
 「ブライトル」付根縛着用ニ供スル爲現在有スル打物ヲ取去リ其跡ニ樺二吋角長サ船尾部ヨリ船首操舵室附近迄通ズル打物ヲ舷樁柱ニ設ケタリ





名称	符号	材料	太さ	網目	横目	長さ	支数	縮結	深	仕上
袖	イ	綿	8	8	4	100	25	5	0.2	40 (60)
	ロ			35		50	65		43.5	775
脇	ハ		12	3			85	123	51	3239
魚捕	ニ		15	2.5		20	1.5	1.5	51	0
	ホ			3		5.2	1			
脇	ヒ		12			25	85	7.25	51	(60)
網	ト		0	5		50	73		5.2	965
	チ		8	4			65	5		0
	リ									
	ニ									120
	ホ									

名称	符号	材料
流子	ア	網
	イ	
	ロ	
	ハ	
	ニ	
網	サ	
	シ	
	ス	

經銷市着網構造圖

大正十二年四月
編尺 = 分十間

千葉縣水産試驗場



名称	符号	材料	寸法	数量	重量	備註
網	イ	網	25	100	2500	
	ロ	網	35	50	1750	
	ハ	網	12	3	36	
	ニ	網	15	25	375	
	ホ	網	10	2	20	
	ヘ	網	10	25	250	
	ト	網	10	25	250	
	チ	網	10	25	250	
	リ	網	10	25	250	
	ル	網	10	25	250	

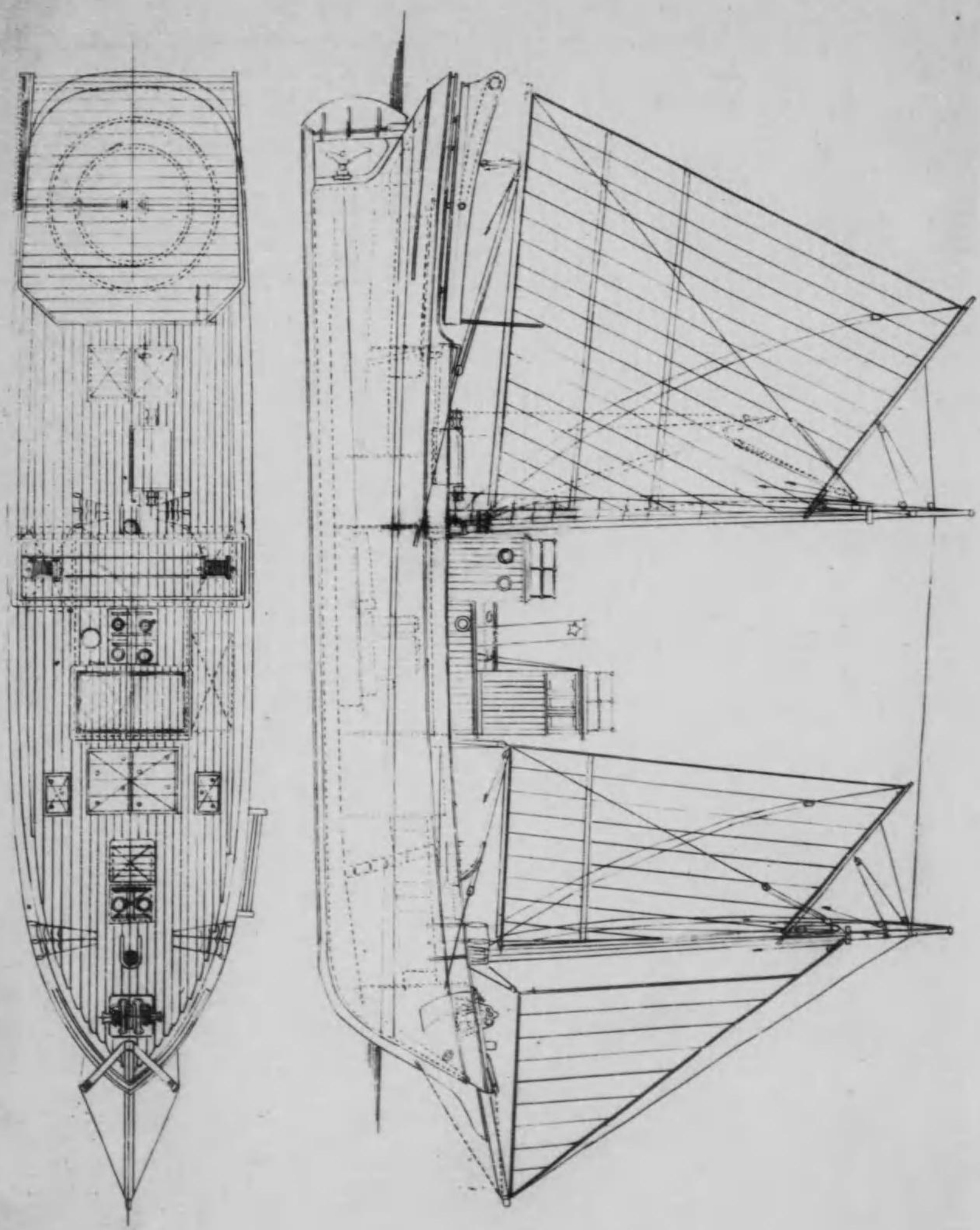
名称	符号	材料	寸法	数量	重量	備註
網	イ	網	25	100	2500	
	ロ	網	35	50	1750	
	ハ	網	12	3	36	
	ニ	網	15	25	375	
	ホ	網	10	2	20	
	ヘ	網	10	25	250	
	ト	網	10	25	250	
	チ	網	10	25	250	
	リ	網	10	25	250	
	ル	網	10	25	250	

名称	符号	材料	寸法	数量	重量	備註
網	イ	網	25	100	2500	
	ロ	網	35	50	1750	
	ハ	網	12	3	36	
	ニ	網	15	25	375	
	ホ	網	10	2	20	
	ヘ	網	10	25	250	
	ト	網	10	25	250	
	チ	網	10	25	250	
	リ	網	10	25	250	
	ル	網	10	25	250	

名称	符号	材料	形状	寸法	数量	目方	總數
網	イ	網	網	25	100	2500	
	ロ	網	網	35	50	1750	
	ハ	網	網	12	3	36	
	ニ	網	網	15	25	375	
	ホ	網	網	10	2	20	
	ヘ	網	網	10	25	250	
	ト	網	網	10	25	250	
	チ	網	網	10	25	250	
	リ	網	網	10	25	250	
	ル	網	網	10	25	250	

名称	符号	材料	形状	寸法	数量	目方	總數
網	イ	網	網	25	100	2500	
	ロ	網	網	35	50	1750	
	ハ	網	網	12	3	36	
	ニ	網	網	15	25	375	
	ホ	網	網	10	2	20	
	ヘ	網	網	10	25	250	
	ト	網	網	10	25	250	
	チ	網	網	10	25	250	
	リ	網	網	10	25	250	
	ル	網	網	10	25	250	



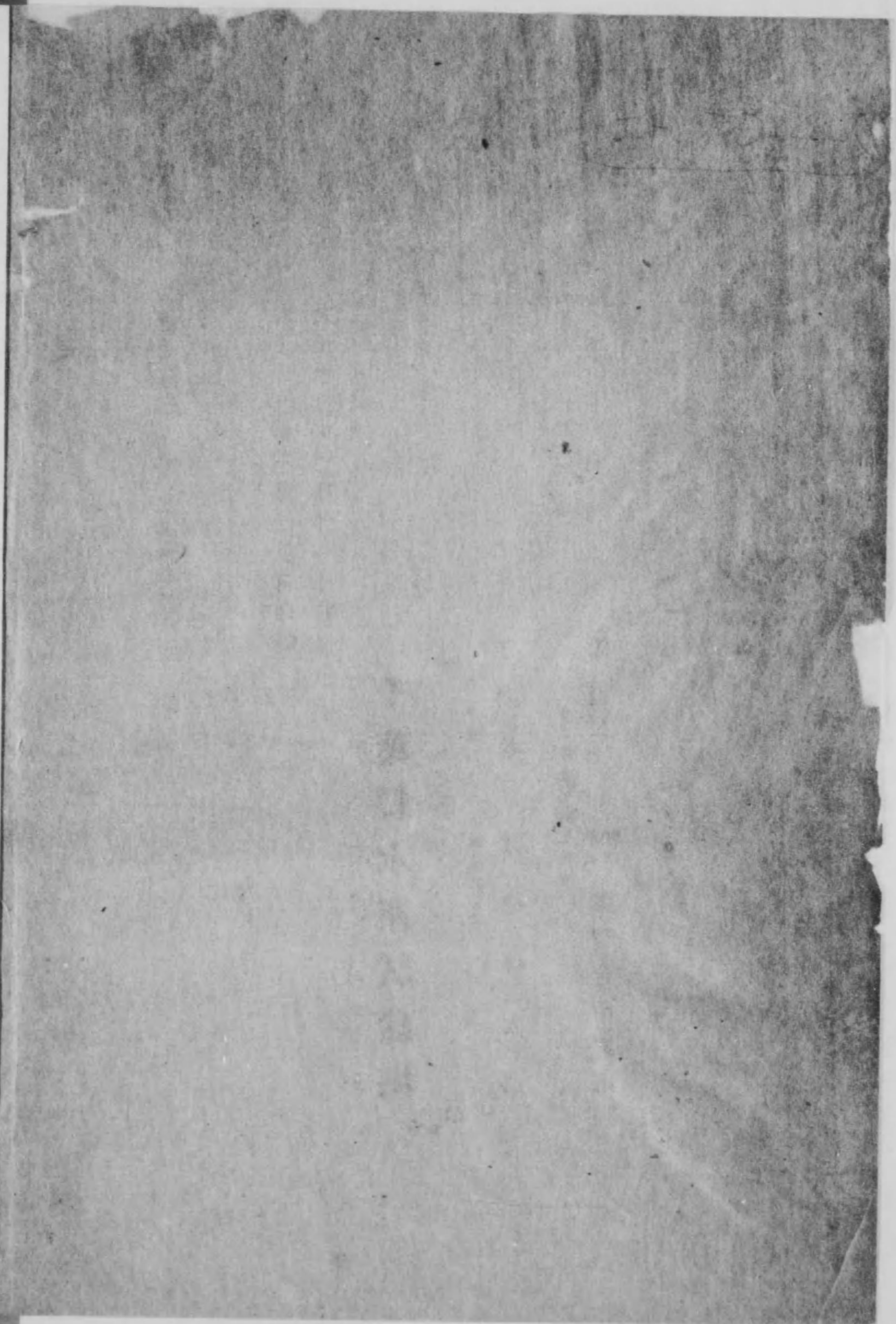


大正十三年三月廿五日印刷
大正十三年三月卅一日發行

千葉縣水產試驗場

印刷者 渡邊德太郎
千葉縣安房郡北條町

印刷所 集贊舍印刷所
千葉縣安房郡北條町 株式會社



終

2
1